

きらめき未来塾 2014

報告書

【開催日程】 2014年8月18日～8月22日
【会場】 兵庫県洲本市 ウェルネスパーク五色



2014年11月
認定NPO法人きらめき未来塾

目 次

1.	お礼とご報告（理事長挨拶）	1
2.	高校生のためのきらめき未来塾 2014 を開催して（大竹名誉塾長挨拶）	2
3.	発起人代表挨拶	3
4.	開催概要	4
5.	カリキュラム概要	6
6.	講師紹介	8
7.	講義	12
8.	チームミーティング	19
9.	パネルディスカッション	23
10.	茶道研修	27
11.	コミュニケーションづくりについて	29
12.	発表会・卒塾式	36
13.	OBセッション	37
14.	野外学習	40
15.	塾生について	41
16.	サポーターについて	43
17.	塾生の声～これからの目標	46
18.	保護者アンケート	49
19.	事務局総括	52
20.	事務局活動	53
21.	プレスリリース	54
	（1）後援・協賛 名義	56
22.	（2）ご協力いただいた方々	57
	（3）ご協賛いただいた法人・団体・個人	57
	（1）理事会	58
23.	（2）事務局・サポーター・OBセッション	59

1. お礼とご報告

今年も第10回きらめき未来塾を成功裡に開催することができたのは、地元洲本市、後援各団体のご支援とサポーター、スタッフのご尽力の賜物と御礼申し上げます。今年は例年にも増して多くの参加希望者があり、制限しなければならなかったのは残念であった反面、それだけ当塾の意義が認められている証左であり嬉しい限りです。それはこれまでの9回の実績が評価された事を意味し、新任の理事長として、ここまで当塾を育てて頂いた先輩各位に深甚なる敬意を表させていただきます。

当塾の企画の柱は、各分野の講師の経験、人生観、哲学を聞くと共に、異なる地域、学校からの仲間（留学生も含む）、サポーターの先輩諸君に触れ、自己の世界観を広げると同時に外側から自己を見つめる事により、これからの人生のヒントを得る。

もう一つは、貴重な青春の日々を無為に過ごすことがないよう、明確な目的を持ってそれを実現すべく努力するためのアフターセッションを学ぶという事です。

これ等の中、自己探求、人生設計に答えはありません。生きた結果がその人の答えである、どのような人生を築くか、そのためには青春という時期に自己を究め、人生の方向付けを始める事は大切な事です。その時、できるだけ多様で広範な情報に基づくのが良い事は言うまでもありません。しかし情報というのは、得るだけでは役に立たないこともあります。人間、目で見える事と心で見えている事は別物だからです。頭で理解すると共にその奥にあるものを感じ取る感性が大切です。

今年は感性と学ぶ意欲に恵まれた生徒が多数参加してくれた事が塾を充実させる事につながったという事が参加感想文からも伺えます。今後も優れた講師と共に探求心に溢れた生徒を集める努力が必要であると考えます。

しかし企画の理想を追求しても NPO で関係者と支援者の奉仕と献身に支えられている限り、限界はあります。今後とも関係各位とさらに多くの方々のご厚志を切にお願いする次第です。

平成 26 年 11 月

認定 NPO 法人きらめき未来塾
理事長 水野 彌一

2. 高校生のためのきらめき未来塾 2014 を開催して

2005 年の未来塾開塾以来、10 回目の開催と記念すべき年となりました 2014 年「きらめき未来塾」は、本年も兵庫県洲本市で 8 月 18 日～8 月 22 日の 5 日間にわたり開催いたしました。10 回目を迎えた本年は、1 都 2 府 10 県の 69 校から 75 名と例年を上回る多くの高校から参加いただきました。広島で産声をあげ、近畿で育った未来塾は、このように全国から参加いただけるようになりましたのも、これまでの積み重ねの結果であり、未来塾の意義、成果が認知されつつあることを嬉しく存じます。

国難・危機の時代、リーダーの担うべき役割とは何であるか。私が考える理想的なリーダー像、真のリーダーとは、常に真実を語る勇気があり、あらゆる意見に耳を傾けながらも、自分の判断に自信を持って実行できる人であると思います。そして、自信を持って実行したことが、現実社会で成果を挙げられるように、他の人たちの心に火をつけ、インスパイアする魅力を備えている人です。

グローバル化の時代を迎え、今、企業が求める人材は異能・異才な人物です。つまり、異なった能力と才能をもった人です。なぜならば、解のない時代、課題解決能力が求められるからです。それにはどんな国で、どんな仕事でもできるマルチタイプの人間になれということです。

そのために「心力」を養っていただきたいと思います。「心力」を養うということは、「人間力」を付け、高めることにつながるからです。こころの力は人生を決める根幹であり、自分の意思を伝えるため言葉の力を訓練し、意志の力をも高めます。

未来学者は、2030 年には現在のビジネスの 65%がなくなると予想しています。であるからこそ、どのような人生設計をすべきか、自ら描かなければなりません。

リーダーとなるためには何が必要であるかと考え、また一人ひとりが自分の「目標」や「夢」を持ち、それを実現する道筋を「気づき」「発見」する場が未来塾です。世界で活躍する社会人講師の講義やグループディスカッション、グループワークを通じ、将来の人生設計をするためのヒントを得たものと思います。

最終日の皆さんの顔には、夢と希望があふれ、充実感がみなぎっていました。5 日間という短い期間でしたが、講師の方々や仲間から刺激とアドバイスを受け、「新しい自分」と出会い、人生の目標を定めるための一歩を固めることができたのではないかと思います。

夢の実現に向けて—Never Give In！—自分との戦いに勝利する。

努力の積み重ねこそが天才や偉人をつくるのです。英国の元首相ウィンストン・チャーチルは、ドイツとの戦いで英国に勝利をもたらし、今や世界のリーダーとして有名です。そのチャーチルが、若い皆さんに発した言葉は、15 分のスピーチで 5 分間隔で「Never Give In（決してあきらめるな）」を 3 回繰り返しただけです。

この精神で、そして社会を少しでもよくしようという「使命感」と「勇気」を持って「好きと思えること」を決して諦めることなく挑戦し続けていただきたいと思います。

最後になりましたが、本年も「きらめき未来塾」が成功裏に終了いたしましたことをご報告申し上げます。開催にあたりまして兵庫県をはじめ、洲本市の皆様のご全面的なご協力、ご支援を賜りましたことあらためてお礼申し上げます。あわせて、多くの企業団体、個人の皆様からご賛同、ご支援、ご協力を賜りましたことに重ねて心より厚くお礼申し上げます。

認定 NPO 法人きらめき未来塾
名誉塾長 大竹 美喜

3. 発起人代表挨拶

本年は、広島で第一回の未来塾が開催されてから 10 回目の開催となる記念の「きらめき未来塾 2014」を一昨年、昨年と同様の兵庫県洲本市のウェルネスパーク五色で実施しました。4 泊 5 日の研修は、天候にも恵まれ、たいへん有意義であったと思います。

期間中の状況について、詳細に報告を受けていますが、今年の特徴は、第 10 回目の記念すべき未来塾であり開塾にあたり、齋藤洋一名誉理事長からこの 10 年を振り返り、そして未来塾の将来展望等についてお話しがありました。また、10 年記念を特集した小冊子を作成しましたが、下村文部科学大臣からのお祝いのお言葉を頂戴するなど、大変光栄に思いました。

今回の「きらめき未来塾 2014」は、急速に進展するグローバル化に対応するために、塾生として外国人留学生の参加、パネリスト、サポーターとして一部外国人を採用し、英会話の時間を多くしたこと、そして、今回塾生の募集要項の中で、英語によるコミュニケーションをする時間があることを示唆していたのでこれに対応出来る優秀な塾生が多く集まった。また、講師の選考にもグローバル化に対応するという観点から世界の政治経済等々の動向に焦点をあわせ、世界の中の日本という内容の講義が多かった。

そして、今回はカリキュラムの中に茶道を取り入れたことが大きな特徴であったかと思えます。高校教諭として茶道華道を教えてこられた地元の先生から、お茶の極意を教えてくださいました。その中で、野にある花をさりげなく生け、季節を感じさせ、地元淡路島を型とったお菓子をいただいた。お茶は日本文化の原点であり、日本人の美意識が凝縮された世界、美意識は日本人の哲学、生き方であるとの講義がありました。

私は以前に、ある月刊誌で大手コンビニローソンの新浪剛史会長が茶道を知らずして日本文化を語ることなかれと標題のついたお茶に関しての対談を読みました。その中で、「英語が話せるのがグローバルな人材というのは間違いで、自分を育ててくれた自己の文化を海外に向かってアピール出来て初めて、グローバルな議論に参加することが出来る。これからの経営者の仲間に少しでも文化や哲学の大切さを伝えたい。」と話されていました。

経営者の仲間というところを、日本を担うリーダーと読みかえれば、今回のカリキュラムに茶道を導入した我々の思いと同じです。

最後になりましたが、未来塾開催 10 年という節目にあたり、文部科学大臣、兵庫県知事、広島県知事様はじめ、多くの方々からのお祝いやご激励を賜りましたこと厚くお礼申し上げます。また、洲本市長様はじめ、洲本市、同教育委員会の皆様に大変ご尽力を賜りました。本当にありがとうございました。

今回も新聞、テレビ等に報道される等、多方面から高い評価をいただきました。このような楽しく有意義な塾を 10 年も続けて開催出来ましたことはご協賛賜りました多くの法人、個人の皆様のおかげでございます。その厚志に深く感謝申し上げます。

今後の未来塾のあり方については、一層のグローバル化の進展をにらんでの内容を多く取り入れる等の変わるもの、日本の文化歴史等、変わらぬものを上手に合わせた内容にする等、いろいろ検討を重ね、事業内容を更に充実発展させたいと思います。

引き続きご支援ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

認定 NPO 法人きらめき未来塾
発起人代表 大石正守

4. 開催概要

(1) 開催日程 2014年8月18日(月)～8月22日(金) 4泊5日

(2) 開催施設 ウェルネスパーク五色



〒656-1301

兵庫県洲本市五色町都志 1087

TEL : 0799-33-1600 FAX : 0799-33-1603

アクセス

① 電車・バスの場合

三宮から高速バス(淡路交通・神姫バス)高田屋嘉兵衛公園下車(約100分)

(※JR舞子駅で乗り換え、高速舞子からも乗車可)

② 車の場合



・大阪から100分 ・神戸から70分 ・北淡I.C.から30分 ・津名一宮I.C.から25分

(3) 参加人数 私立・公立高校の生徒 75名

大阪府	9名	兵庫県	18名	京都府	15名	奈良県	4名
東京都	10名	千葉県	2名	埼玉県	1名	静岡県	1名
神奈川県	1名	愛知県	4名	北海道	1名	宮城県	2名
島根県	1名	広島県	6名				

※内留学生 2名参加

(4) 参加高等学校一覧

【関西】

地域	学校名	
大阪府	府立	阿倍野
	府立	山田
	府立	狭山
	府立	生野
	私立	追手門
	私立	関西学院千里国際
	私立	大阪薫英女学院
	私立	清風学園
兵庫県	県立	明石西
	県立	芦屋国際中等教育学校
	県立	尼崎小田
	県立	生野
	県立	伊丹
	県立	伊丹北
	県立	川西明峰
	県立	太子
	県立	宝塚東
	県立	西宮北
	県立	兵庫
	県立	三木
	県立	八鹿
	県立	農業
	県立	湊川
	私立	神戸学院大学附属
	私立	武庫川女子大学付属
京都府	府立	海洋
	府立	亀岡
	府立	久美浜
	府立	向陽
	府立	東稜
	府立	西乙訓
	府立	東舞鶴
	府立	峰山
	市立	西京
	市立	堀川
	私立	京都外大西
	私立	京都橘
	私立	同志社
	私立	東山
	私立	福知山成美
奈良県	国立	奈良女子大附属
	私立	東大寺学園
	私立	西大和学園

【関東・その他】

地域	学校名	
東京都	都立	小石川中等教育学校
	私立	暁星
	私立	洗足学園
	私立	國學院大学久我山
	私立	品川女子学院
	私立	芝
	私立	淑徳
	私立	成城
	私立	富士見丘
	私立	聖光学院
神奈川県	私立	市川
千葉県	私立	千葉商科大学付属
	私立	慶應義塾志木
埼玉県	私立	加藤学園暁秀
静岡県	私立	佐沼
宮城県	県立	桜台
	私立	海陽中等教育学校
	私立	名城大学附属
愛知県	私立	名古屋
	私立	札幌聖心
北海道	私立	開星高等学校
島根県	県立	庄原実業
広島県	県立	廿日市
	呉市立	呉
	私立	広島学院
	私立	広島女子学院

(69校)

男女・学年別人数

学年	女子	男子	合計
1年生	10名	9名	19名
2年生	26名	23名	49名
3年生	5名	2名	9名
合計	41名	34名	75名

5. カリキュラム

(1) 概要

きらめき未来塾は、次の理念に基づき、国際社会、日本、地域社会で活躍する有能な人材、将来的に日本を担い支えるリーダーを養成すべく、カリキュラムを編成しています。

1. 志を抱き、実現に向け挑戦し続ける心強き人
2. 思いやりを持ち、共生できる心清き人
3. 歴史や文化を理解し、人間的魅力のある心深き人
4. 世界中の人とコミュニケーションできる心広き人
5. 強い責任感と行動力のある心熱き人

上記、5つの基本理念に加え、本年度は「グローバル」という視点を強化したカリキュラム作りを行いました。

塾生の募集も、これまで参加のなかった学校や地域に広く呼びかけ、留学生の参加を募るなど、より多様な生徒が集まることで塾生同士が刺激しあい、学び合える塾を目指しました。

講義	ビジネス、医療、スポーツ、芸術など様々な分野から講師を招く。各講師の専門的知識や、経験をもとにした講義により、塾生に問題意識を持たせ、夢を見つけるきっかけや目標実現の指針を与える。
ディスカッション	講義後に、感想や疑問に思ったことを、塾生同士で意見交換する場を設けることにより、受け身で話を聞いているだけではなく、能動的な態度で講義にのぞみ、一人ひとりが自分で考え、発言する力を養う。
英語	国際化が進む社会において必須となる英語の重要性を認識する機会を設け、外国人講師の話す「生の英語」を聴くことで、英語への興味や英語力向上への意欲を持つきっかけとなるような時間を設ける。
チームミーティング	与えられた課題に対し、チームで意見を出し合い協力して取り組み、達成することによってチーム間でのコミュニケーションを深め、協調性を育てるとともに、創造性を深めリーダーシップを発揮する場とする。
レクリエーション 音楽	初対面同士の塾生の緊張を和らげ、話かけやすい雰囲気を作るとともに、明るく活発な人間的魅力を涵養する。また、融和協調をはかり、コミュニケーション力、団結力を高めることを目的とする。
パネルディスカッション	大学生、実社会で働いている若手社会人から話を聞くことで、塾生に今後のキャリアについて考える場とする。キャリア形成のために高校生である塾生が今何をすべきか、端的にパネリストからアドバイスを得るような構成としている。
茶道研修	茶道を通し、自国の文化や歴史について知り、理解することによって、「人間的魅力のある心深き人」を育て、「グローバル人」として国際的な議論の場に参加するための素養を身につける。
野外学習	開催地の文化施設等の見学や、自然の中で活動を行うことによって、豊かな感受性と、自ら考え学ぶ力を身につける。また、集団の中でリーダーとして必要な自主・自立の精神、行動力を養う。
発表会	塾で学んだことを糧にし、自身で定めた将来の目標について決意表明を行う。自分の目標を堂々と人の前で発表する能力を養うとともに、夢の実現に向けての明確な意識を持たせることを目標とする。

◆ 塾生は9～10人程に組分けして、チームでの活動を基本とする。

◆ サポーターについて

塾生の学習や合宿生活は、若手社会人や大学生からなるサポーターがフォローを行い、塾生達のファシリテーター役をつとめ、夢を見つけ目標をつくるためのアドバイスを行う。

(2) きらめき未来塾2014 スケジュール

	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00
8/18 (月) 1日目		事務局 集合 9:00	サポーター 集合 9:30	塾生 集合 10:00	JR新大阪駅 バス出発 10:30	アイス ブレーキング 前田講師	研修 会場 到着	屋 食 荷物搬入 13:00~14:30	入塾式 開塾10回目を記念して 理事長・役員挨拶 来賓紹介 塾生宣誓 塾生心得 14:30~15:40	休憩 大竹美喜名誉塾長 講話 「夢の実現に向けて -Never Give In-最良の 未来を創るために」 15:50~16:50	休憩 講義1 織田善行 講師 「アフアメーションで 未来をきり拓く」 17:00~18:00	夕 食 18:00~19:00	オリエンテーション 英語/日本語 19:00~20:30	塾生 入浴・消灯 20:30~23:00		
8/19 (火) 2日目	体操 6:45~ 7:30	講義2 金城啓一 講師 「Kepler第一法則 & Newton第一法則の 意味」 9:00~9:50	講義3 小坂文乃 講師 「孫文と梅屋庄吉 ~Transnationalな 生き方を学ぶ~」 10:50~11:40	Q&A ディスカッション 9:50~ 10:40	休憩 講義4 窪島誠一郎 講師 「『無言館』のこと -戦没画学生が伝えるもの-」 14:45~16:15	Q&A ディスカッション 11:40~ 12:30	屋 食 12:30~13:30	休憩 14:30~ 14:45	講義7 柳澤幸雄 講師 「未知の病に遭遇したとき」 14:45~16:25	休憩 感想 発表	ワークショップ 木川 梢 講師 英語でやってみよう 「世界がもし100人の村だったら」 16:35~18:10	夕 食 18:10~19:10	パネルディスカッション 「キャリア形成について」 英語/日本語 19:10~21:00	塾生 入浴・消灯 21:00~23:00		
8/20 (水) 3日目	体操 6:45~ 7:30	講義5 下垣真希 塾長 「多文化共生論」 9:00~9:50	講義6 黒岩祐治 講師 「夢を実現する チカラとは？」 10:50~11:40	Q&A ディスカッション 9:50~ 10:40	休憩 講義8 瀬澤 健 講師 「2020ビジョン ~グローバル社会に おける日本」 9:00~9:50	Q&A ディスカッション 11:40~ 12:30	屋 食 12:30~13:30	休憩 14:30~ 14:45	講義9 吉川 榮治 講師 「日本の将来に ついて考える」 10:50~11:40	休憩	茶道研修 16:35~18:10	夕 食 18:40~19:40	チームミーティング 19:40~21:00	塾生 入浴・消灯 21:00~23:00		
8/21 (木) 4日目	体操 6:45~ 7:30	講義8 瀬澤 健 講師 「2020ビジョン ~グローバル社会に おける日本」 9:00~9:50	講義9 吉川 榮治 講師 「日本の将来に ついて考える」 10:50~11:40	Q&A ディスカッション 9:50~ 10:40	発表会 卒業証書授与 15:00~17:00	Q&A ディスカッション 11:40~ 12:30	屋 食 12:30~13:30	チーム ミーティング 13:30~15:00	写真 撮影 塾長 講話	OBセッション 同窓会 インフォメーション 17:00~18:00	後片付け チーム ミーティ ング 18:10~ 18:40	夕 食 18:40~19:40	チームミーティング 19:40~21:00	塾生 入浴・消灯 21:00~23:00		
8/22 (金) 5日目	帰途 準備	朝 食 7:30~8:30	野外学習 大塚製菓 徳島板野工場見学 ⇒ 道の駅 うずしお(昼食) 14:15 淡路ハイウェイオアシス 15:45 新神戸 降車 17:00頃 新大阪 解散(予定)													

6. 講師紹介

<p>名誉塾長 おおたけ よしき 大竹 美喜</p>	<p>韓国大邱(テグ)韓医科大学名誉保健学博士授位。1974年11月アフラック(アメリカンファミリー生命保険会社)日本社を創業。副社長、社長、会長を経て、2003年創業者・最高顧問に就任し現在に至る。日本で初めて「がん保険」でスタートした同社を国内最大級の外資系生命保険会社に成長させた。本業のかたわら、教育面では多数の大学で理事等を務め若者の人材育成に注力。政府の教育再生実行会議の委員として活躍。国民の豊かな生活に向けてさまざまな提言を行うとともに、ニュービジネスの育成にも尽力している。</p>
<p>塾長 しもがき まき 下垣 真希</p>	<p>愛知県立芸術大学卒業後、国際ロータリー財団奨学生としてドイツに留学。ドイツ国家声楽教授資格を取得し、ケルン国立音楽大学を卒業。冷戦時代からベルリンの壁崩壊までの歴史的大転換期にドイツ国際ラジオ局でDJを務める。帰国後、国内外のオーケストラと競演する他、ひとりオペラ「女はすてき」を全国で公演。2000年、アジア代表としてドイツ・ハノーヴァー万博閉会式で独唱。近年は、日本の美しさや命と平和の尊さを伝えるメッセージ性の高いコンサートや、生演奏を取り入れた講演活動を全国で展開。コンサート活動のかたわら、名城大学大学院で多文化共生論、ドイツ語の教鞭をとる。</p>
<p>塾長補佐 まえだ よしあき 前田 嘉昭</p>	<p>東京教育大学卒業。大阪府高等学校教諭、大阪府立阿倍野高校校長を務め退職。大阪教育大学等非常勤講師(公財)大阪府レクリエーション協会理事・生涯スポーツ社会づくりの推進を目標にボランティア活動をしている。</p>
<p>おだ よしゆき 織田 善行</p>	<p>広島大学附属福山高校卒業、東京大学文学部社会学科卒業。明治安田生命入社後、AFLACに転職。取締役人事部長、常務取締役を歴任。アフラック勇退後は、TPI ジャパン社長を経て、現在、アドベンチャーコーチング株式会社社長。</p>
<p>かねしろ けいいち 金城 啓一</p>	<p>神奈川県、埼玉の公立高校、東京学芸大学附属高校で物理の教鞭をとる傍ら、東京電機大学、東京大学、中央大学で理科教育法の講座を勤めるとともに、日本物理教育学会のレフェリー・理事・副会長を歴任。</p>
<p>こさか あやの 小坂 文乃</p>	<p>中学・高校時代を英国で過ごし、立教大学社会学部観光学科卒業。英国系企業を経て、現在、日比谷松本楼取締役副社長。著書に、「革命をプロデュースした日本人(講談社)」、「ナガサキ人梅屋庄吉の生涯(ナガサキ文献社)」がある。</p>
<p>くぼしま せいいちろう 窪島 誠一郎</p>	<p>1979年「信濃デッサン館」を開館。1997年戦没画学生の遺作を蒐集。それらの作品やイーゼルなどを展示する。戦没画学生慰霊美術館「無言館」を開設。第46回サンケイ児童出版文化賞、第53回菊池寛賞受賞。著書多数。</p>
<p>まがわ こずえ 木川 梢</p>	<p>アメリカの大学を卒業後、開発途上国を中心に旅をする。その影響から、帰国後は、日本語または英語によるグローバル教育のワークショップのファシリテーターとして活動中。関西国際大学国際学専攻講師。</p>
<p>くろいわ ゆうじ 黒岩 祐治</p>	<p>現神奈川県知事。元フジテレビキャスター、元国際医療福祉大学大学院教授、元早稲田大学大学院講師。1980年早稲田大学政経学部卒業後、フジテレビジョン入社。報道記者、番組ディレクターを経て、「FNN スーパータイム」「(新)報道2001」のキャスターを21年半務め、2009年9月末退社。2年間のワシントン駐在も経験。自ら企画・取材・編集まで手がけた救急医療キャンペーンが救急救命士誕生に結びつき、放送文化基金賞、民間放送連盟賞を受賞。ミュージカル「葉っぱのフレディ」のプロデューサーも務める。</p>
<p>やなぎさわ ゆきお 柳澤 幸雄</p>	<p>開成学園校長。東大化学工業科を卒業。SEとして勤務後、東大大学院で博士号取得。ハーバード大公衆衛生大学院の准教授、併任教授を経て、東大大学院環境システム学専攻教授。空気汚染と健康に関する研究と教育に従事。</p>
<p>しぶさわ けん 澁澤 健</p>	<p>テキサス大学卒業後、UCLAにてMBA取得。米系投資銀行でマーケット業務に携わり、1996年米大手ヘッジファンド入社。2001年シブサワ・アンド・カンパニー(株)創業。2008年コモンズ投資(株)設立、会長就任。著書「澁澤栄一 明日を生きる100の言葉」他。</p>
<p>よしかわ えいじ 吉川 榮治</p>	<p>防衛大学校を卒業後、海上自衛隊に入隊。米海軍大学留学、練習艦隊司令官等を歴任し、2008年海上幕僚長を最後に退官。豊富な経験をもとに「リーダーシップ」等の講義を行っている。</p>

大竹美喜 名誉塾長
(夢の実現に向けて～Never give in～最良の未来を創るために)

『講義でもお話しましたが、失敗や挫折から多くを学んで欲しい。学ぶことが多ければ多いほど、成功につながる。失敗を恐れず挑戦して欲しいと思います。挑戦しない方がリスクが多いことも真実です。』



下垣真希 塾長 (多文化共生論)

『日本人は誠実ですね。最近嘘つきな若者が増えたと言いましたが、世界の基準から言うと日本人は正直で誠実だと思います。ドイツ人も正直さや誠実さは大事にしているなのでその部分は受け入れてくれました。それらは、誇ることでできる日本人の素晴らしい資質だと思うから忘れないでほしいです。』



前田嘉昭 塾長補佐 (アイスブレイキング)

『学生数が、一校一人ということなので、たくさん的高校から参加してくれて、それぞれの学校の個性が出てきているのではないかな。そういう面では、二人だったら頼ってしまうところを、ひとりひとりが自覚して、楽しんでくれて勉強してくれているのではないかなと、そういう雰囲気を特に感じましたね。』



織田善行 講師 (アフターセッションで未来をきり拓く)

『具体性が重要。そしてそれが実現できたときのイメージを思い描くことが大切です。それが魅力的であれば、人は行動を起こすものです。魅力を感じなければ行動は起きません。そんなときは、もう一度自分が本当に実現したいことは何かについて自分に問いかけてみてください。そしてアフターセッションをつくり直すのです。』



金城啓一 講師 (Kepler 第一法則&Newton 第一法則の意味)

『問題に対して自分たちがどのような気持ちで臨むのか、単に批判するだけではない無知でもいけない、じゃあどう風にしていいか、自分達だったらどのように生きるか、それを外国の制度や外国の人達と一緒にあって討議できる力をつけるためには、日本の教育は変わらないと今本当に大変な状態に陥っているということを考えながらこれから前に一歩ずつ進んでいってもらえたらうれしいなと思っています。』



小坂文乃 講師（孫文と梅屋庄吉～Transnational な生き方を学ぶ～）

『中国とつきあう以上は、何かしらの縁を、自分の祖先の話でなくていいんです。何かしら日本人のこういった縁があるんだよということをアピールしていくことで信頼が得られるわけです。縁をたどって縁を作っていくという東洋的なやり方を学んでいかなければいけないのかなって思いますね。』



窪島誠一郎 講師（『無言館』のこと—戦没画学生が伝えるもの—）

『戦争というのは国同士が起こすのですが、人間のエゴイズムや、どこかで気づかぬうちに弱い他者をいじめていたり、小さい虫を叩いていたり、すでに人間の心の中に芽生えています。それを退治していくというのかな。それから、人の痛みや悲しみに寄り添える創造力や喚起力を培って欲しいと思います。』



木川梢 講師（英語でやってみよう「世界がもし100人の村だったら」）

『diversity(多様性)』がキーワードだと思います。それに批判的に考えることが大切です。メディアを通して得られる情報だけに頼りすぎないこと。メディアからの情報を違う角度から見なければなりません。それから、多くの疑問を持つこと。この疑問に思うことはとても大切だと思います。』



黒岩祐治 講師（夢を実現するチカラとは？）

『夢を実現するのに必要なことは、ミッション、パッション、アクションの3つです。まずは自分に与えられた使命（ミッション）を見つけること、それがあなたの夢です。そして、情熱（パッション）を持ち続け、具体の行動（アクション）につなげていくことです。』



柳澤幸雄 講師（未知の病に遭遇したとき）

『自分の時間は自分1人のためだから、どう使うか自分が自分の時間をどうやって生きるのか常に最大限に考えなければいけない。それが自分に幸せをもたらすことになる。批判することは重要だけどそれで終わらせてしまったらそこで止まってしまう。人のせいにしていても何も生み出さない。』



澁澤 健 講師（2020ビジョン～グローバル社会における日本～）

『初心に戻って、自分は何が大切であるか気づく。「我がコト感」を持つ。たとえ、遠く、手の届かないことであっても、誰かに任せるのではなく、我が事として、少しでもいいから行動するということです。』



吉川榮治 講師（日本の将来について考える）

『歴史の資料はどれが正しいかというのは難しい。事実だけを取り上げ、それに対して自分の考えを積み上げていくしかない。教える立場は、事実をきちんと伝えるということ。良いか悪いかは個人の判断です。そこが教育者として注意してほしいことです。』



【参考・推薦図書一覧】

大竹 美喜 名誉塾長	『縁一人の輪が仕事を大きくする』（大竹美喜、ベストブック） 『逆境の中にこそ夢がある』（蒲島郁夫、講談社）
小坂 文乃 講師	『革命をプロデュースした日本人』（小坂文乃、講談社）
窪島 誠一郎 講師	『無言館への旅』（白水社） 『無言館の青春』（講談社） 『無言館ものがたり』（講談社） 『無言館にいらっしゃい』（ちくまプリマー新書）
木川 梢 講師	『世界がもし100人の村だったら』（マガジンハウス）
下垣 真希 講師	『ヨーロッパ各国気質』片野優+須貝典子、草思社 『住んでみたドイツ 8勝2敗で日本の勝ち』（川口マーン恵美、講談社+α新書）
黒岩 祐治 講師	『一瞬で人の心をワシ掴みにする黒岩方式』（黒岩祐治、日本文芸社） 『情報から真実をすくい取る力』（黒岩祐治、青志社）
柳澤 幸雄 講師	『原田正純の道』（佐藤信著、毎日新聞社） 『化学物質過敏症』（柳澤幸雄、石川哲、宮田幹夫著 文春新書 230）

7. 講義について

本年度の講義は、「グローバル」という視点を強化するというテーマに沿って、講師の選定をした。時代の変化、また子供たちの変化にもあわせ、カリキュラムも進化しなければいけない。10回目という節目を迎え、新たな展開に進んでいくため変革期と捉えている今年は、今までになかった分野や実験、反転授業、ワークショップなど、内容や講義展開がバラエティに富んでいながらも、基本理念やグローバルに沿った芯がしっかりした構成になったのではないかと思う。

講義数は、昨年より減らし10コマとし、うち1つはワークショップという形で行った。時間は1つの講義は100分とし、講義50分、質問20分、ディスカッション30分を基本として進めていただくよう講師の方々に依頼した。

内容については、難しいテーマを取り扱っていても、実験や双方向型のケーススタディなどにより、学習に対する苦手意識のある塾生も理解しやすかったのではないかと思う。英語ワークショップは少しレベルの高い内容で行われたため理解するのが困難だった生徒もいたようだ。しかし塾生募集要項に「英語での講義の実施」「留学生の参加」の旨を記載したため、留学経験があったり、英語が得意または好きな科目という生徒が多く、苦手な生徒をフォローするなど塾生同士で協力しあっていた。英語で堂々と発表する自分と同じ高校生の姿を見て大いに刺激を受け、苦手な塾生は英語力向上の必要性、将来に大きな夢をもつ塾生にとって英語で議論することの重要性を体感したようである。

英語の時間だけでなく、講師への質問時間で疑問点を共有したり、講義後のディスカッションの時間は、色々な地域の学校からなるチームメンバー同士で、共に考え、意見を述べ合ったことにより、学習を深めることができたようだ。

塾生から講師への質問の時間をもっと長くしてほしいという声があった。講義都合により、質問の時間が短くなることもあり、直接質問を講師の方と討論したかった塾生にとっては不満となっていたようだ。個人の要望を聞くこともできないし、ディスカッションの時間も重要と考えているため、そのままのタイムスケジュールを進めた。今年は休み時間が10分しか設けていなかったため、個別に質問に行く時間も少なく、余計にそのような要望や不満の声がでたのだろうと思う。

多忙なスケジュールを調整して講義をしてくださる講師多い中、毎年大人数から質問を受け講義後も塾生に囲まれる黒岩講師は、塾生と話す時間を作って下さったのだが、真剣な生き生きとした目をして話を聴く姿を見ると、普段接することのない方々との貴重な機会なので、対応していただける限り、そのような時間を確保したいと思う。その際の工夫は必要である。



入塾式 講話

大竹美喜 名誉塾長「夢の実現に向けて～Never Give In～最良の未来を創るために」

国難・危機の時代、リーダーの担うべき役割とは何か。グローバル化の時代を迎え、今企業が求める人材は異能・異才な人物。つまり、異なった能力と才能をもった人。なぜならば、解のない時代、課題解決能力が求められることにある。それにはどんな国で、どんな仕事でもできるマルチタイプの人間になれ。2030年には現在のビジネスの65%がなくなると予想されている。であるからこそ、どのような人生設計をすべきか、自ら描かなければならない。

塾生の感想

『「競争無くして進歩なし」「努力に勝るものはない」。この二つの言葉から成功を裏付けるものは努力であり、努力をしない者は競争の場にすら立たせてもらえないというメッセージを受け取った。努力をして当然というような意識を持ちたい。』

『人材がいかに大切であるかを学んだ。求められるリーダーシップのある人間になるには、的確な判断力やあらゆる話に耳を傾ける素直さ、行動力をつけねばならないというのも同時に学んだ。』

講義 1.

織田善行 講師「アフメーションで未来をきり拓く」

夢-希望-目標のベクトルを合わせることが、ものごとを実現するための必須条件だ。若い人は挫折しても良いから、自分のやりたいことを目標として掲げること、そしてそれを書くことが大切。

アフメーション… 自分のやりたいことを次の形式で言葉にすること。一人称・現在形で書き、あたかも達成したかのように表現する。塾生は最終日に塾で学んだことを振り返り、アフメーションを作成、発表をする。

塾生の感想

『将来への自分の夢を実現するためには、まず自分が"action"計画し、行動しなければならないということが、今の自分にとっても当てはまっていて心に響きました。また、「失敗？それはうまくいかないことを確認した成功だ」という言葉にも強く共感しました。』

『目標を立てるだけでは、ただの願望を並べているだけだという言葉が印象に残りました。いつも目標を立てているつもりでしたが、頭の中で漠然としたイメージのままでいたので、実現につながらなかったのだとわかりました。夢を思うだけでなく、そこに行動を伴わせることでそれが希望になり、いずれは目標となる…このことを十代のうちに学べただけでこの合宿にきた価値があると思いました。』



講義 2.

金城啓一 講師「Kepler 第一法則 & Newton 第一法則の意味」

なぜ人は天が回転していると考えたのか？そこには極めて当然な理由があり、地動説の否定を説き伏せるには常識からの脱却が必要だった。それが第一法則の真の意味であるかとは余り指摘されない。

塾生の感想

『地球の自転、公転の秘密を解き明かすために、先人達が多大な勢力を重ねていたこと。また、そこで導かれた式が僕らの身近にあることを知り、理科への興味が少し沸いた。』

『常識にとらわれない考え方を学んだ。当たり前だと思っていたことを一度疑ってみれば、未知の法則が発見できるかもしれない。どんな分野でも好奇心を忘れないでいようと思った。』

講義 3.

小坂文乃 講師「孫文と梅屋庄吉～Transnational な行き方を学ぶ～」

100 年前のアジアに生きた中国人孫文と日本人梅屋庄吉。本講義では、辛亥革命の中心的役割を果たした孫文と物心両面でそれを支えた梅屋庄吉夫妻の友情とヴィジョンについて史料を通じて説明する。そして、二人の友情が現在に至るまで日中の架け橋となっていることを、昨今のアジアの情勢をふまえながら説明する。

塾生の感想

『中国に関する見方が変わりました。情報が偏っている中での判断は難しいし、間違っていることが多いのでメディアだけでなく、本や今回のような講義も、十分に活用していこうと思いました。世界で日本人が活躍していくには自分達だけでは無理で友好関係を築いて協力しあうことが大切だと改めて思います。ディスカッションでもメディアについて固定概念にとらわれているなど、自分達レベルで改善できることが見つかりました。』

『最も楽しみにしていた講義の1つだったが、予想より遥かに興味深い話をして下さった。中国人と日本人は互いのありのままを知り合うことが大切だとおっしゃっていたことが印象的だった。将来において、中国の方と話す機会は必ず訪れると思うが、その時には必ず今日学んだ日中友好の歴史の話をして会話できればと思う。』



講義 4.

窪嶋誠一郎 講師「『無言館』のこと～戦没画学生が伝えるもの～」

「無言館」には戦死した画学生らの絵が収蔵、展示されている。この美術館設立の経緯や収蔵作品について語る。反戦や平和を訴えた絵ではなく、多くは愛する人と生きていた自分の命の証を残した人物画です。時代を超え、どのように生きるのか、なぜ生きるのかを考える機会にしたい。

塾生の感想

『戦死した画学生「戦没画学生」の話には、深く考えさせられるものがありました。ひとつひとつの絵に、家族、恋人、妻への思いが強く込められていました。講義後、すぐに「無言館」に展示されている絵をインターネットで調べて見ましたが、講義を聞いた後だからか、感慨深いものがありました。戦後 69 年が経過した今、どのように生きるのかをしっかりと考えて生活していきたいと思います。』

『「大好きな人のために勉強する」という言葉がすごく新鮮でした。勉強する理由は、色々な人から聞いたことがあり、私自身も「自分のしたいことが見つかった時の選択肢を増やすため」だと考えていました。しかし講師の話聞き、安心したと同時に少し勉強をさぼってしまったり、自分に甘かったところがあり、これからは自分に厳しく大事な人に胸をはれるように頑張りたいです。先生の話聞いて、その時に自分を支えてくれる人達に申し訳なくなりました。それと同時に、その支えてくれる人たちが思い浮かんだことを幸せに思いました。』

ワークショップ 英語でやってみよう

木川 梢 講師「世界がもし 100 人の村だったら」

世界には 70 億以上の人がいる、それを研修室サイズに縮めて、世界の現実を身近に感じるシュミレーションゲームを行なう。様々な言語、人々、文化と多様性に満ちたこの豊かな世界。一方グローバル化の中で進み続ける貧富と格差。世界の多様性や貧富の格差などを体験的に感じ、考え、話し合いをする。

塾生の感想

『世界で見ると、自分はすごくちっぽけな存在。だけど、そういう人 1 人 1 人が集まって社会は形成されていくものなので、世界が直面している食料不足の問題とか世界の貧富関係なく 1 人 1 人が考えていかなければならない問題だと思いました。』

『皆の英語力に圧倒され、泣きそうでした。でも聞いていることは理解でき、皆の言っていることに感銘を受けました。同じ高校生でもこんな考え方ができるのか！と驚くばかりでした。世界の人口問題、言語について、貧富の差について、たくさんの意見が聞けたことで自分の考えも広まりました。日本人としてやるべきことを自分でもしっかり考えたいです。』

『各大陸を比べてみると、様々な面で違い、かたまりが大きくて国が抱えている問題が見えてきた。実際にワークショップとして世界の状況を再現することで課題の大きさがわかった。アジアのチーム内には入りきらないほどの人がいて、窮屈だったし、それがこの地球で実際に起こっている現実なのだと考えると、今すぐに対策をとらなければならないと思うようになった。様々な原因がからみ合って生じてしまっている現状も「share」をキーワードに一人一人が意識することが大切だと思う。意識を育てるために教育は不可欠だ。』



講義 5.

下垣真希 塾長「多文化共生論」

多くの国が国境を接して存在するヨーロッパ諸国の置かれている環境・歴史。自身が留学していたドイツの街づくりや森づくりそして人作りを学び、戦争、日本で平和に暮らしている私達、平和と命の尊さについて考える。

塾生の感想

『ヨーロッパの2ヶ国を取り上げての国民性の対比の話が印象的だった。イタリア人の時間にルーズで体裁をあまり気にしない国民性に対して、ドイツの度が過ぎるほどの真面目さ、几帳面さは日本と共通するものを感じた。』

『ドイツと日本の共通点と違いから、他国を知ることが大事なのかと思いましたが、それだけでなく母国語で自分の国の考えを持っていなければコミュニケーションは成り立たない。他国と自分は全く違って、理想を大事にして理想に沿ったアイデンティティを守り続けていくことの大切さが分かりました。』

講義 6.

黒岩祐治 講師「夢を実現するチカラとは？」

自身の挫折した経験から、失敗したマイナスと思えることこそ、プラスになっていく大きな力であること。またジャーナリスト時代の経験を通し、夢を叶えるために必要なこと、まずは自分に与えられた使命（ミッション）を見つけること、そして、情熱（パッション）を持ち続け、具体的な行動（アクション）につなげていくことについて伝える。

塾生の感想

『自分の夢を実現させるためには「ミッション」「情熱」「行動」の3つの力が大切だというお話にとっても共感しました。自分のやりたい事、好きな事を語る事ができる情熱。それらをやってみせるといふ意欲から生まれる使命感。そして実現させるために方法を考えて自らたくさんの方々と交流し、夢を叶える行動力が必要だと思います。』

『最も印象に残った話は黒岩先生の「ミッション、パッション、アクション」です。自分にも夢があるのですが、夢を叶えるために何をすべきかが見えてきた気がしました。』

政治は観客席にいて文句をいうのではなく、フィールドでプレーする。皆が参加するスタイルであるべきだと思います。』

講義7

柳澤幸雄 講師「未知の病に遭遇したとき」

水俣病発生時の、関係者の対応を根底に置いた仮想ケーススタディーを教材に、双方向型の講義を展開する。ランダムに生徒を指名して質問を行う。仮想事例を通じて、自己の判断を形成する。

『私にとって柳澤講師の講義はとても心を動かされました。どんなに理解できないことでも、まずは相手の話を聞いてあげることからはじめないといけないと思いました。またそれは病気についてだけではないと思えました。大きくなるにつれて辛いことも増えてくるけど、世の中にはいろんな病や悩みで苦しんでいる人が大勢いると思うと、自分は何小さいことで悩んでいるんだろうと思いました。』

『以前から「白熱教室」のような授業が受けられたら良いのと思っていたので、柳澤講師が「反転授業」をすると聞いたときすごく嬉しかったです。しかしそれと同時にスリル感も感じて、実際受けてみると「白熱教室」型の授業がいかに瞬間の発言力を求められるかを痛感しました。柳澤講師がおっしゃっていたように、テレビのニュースなどを見て想定し、判断力の養成に努めたいです。』

『名前を当てられて発言する授業だったので、いつあてられるか緊張して眠気とか吹っ飛びました。そのおかげで講義の内容をより理解して考えをすばやくまとめようとすごく集中しました。「情報が不完全でもリーダーは瞬間的な判断を求められる」という言葉はその通りだと感じました。そしてもし自分が～だったら常に考えることが大切だと思いました。』



講義 8.

澁澤 健 講師「2020 ビジョン～グローバル社会における日本」

2020年から迎える時代は、世代交代によって今までの日本のあり方が大きく変化する。また、世界も立ち止まることがない。そのようなグローバル社会で大切な「共通言語」とは何になるか。また、世界に通じshared valueとは何か。

塾生の感想

『日本の30年後どうなっているのかを考えることができました。枠にとらわれず外から見てくことで、多様な視点を持つこと。それにより環境に応じて進化した今の日本がもっと成長することが分かりました。』

『グローバル社会での日本や自分について改めて考えるととてもいい機会でした。グローバル社会に不可欠なものや未来がどういうものかについて、自分の考えが固定されつつあったので、グローバル社会においては言語だけでなく考え方も物事を広く見られるようにするために、身につけなければいけないなと思いました。未来も今のことから一直線に繋がるだけではなく、多様に变化していくものだと知りました。どの講義でも”日本らしさ”がとても重要だと強調されていたので”グローバル”だけにとらわれないことも必要だと思いました。内枠の中に留まらず、外に飛び出して外から見る必要があると強く感じました。』

講義 9.

吉川榮治 講師「日本の将来について考える」

日本の将来の安全保障を考えるに当たり、安全保障の意味、構成要素等について説明する。その中で、外交と防衛のファクターについて考える。現在の日本をとりまく情勢に関し、パワーゲーム等について考える。

塾生の感想

『「海上自衛隊の元幕僚長の吉川講師の講義で最後に質問をさせていただいた。その内容は「リーダーは個性と協調性のどちらの方がどちらかというところと大切、必要だと思いますか」。回答は「良いリーダーになるには、良いフォロワーになれ」という言葉が返されてとても印象に残った。』

『吉川先生の講義は、興味のある、また講義を通してもっと知りたいと思っていた中国の考えにせまるお話だったため、とても考えさせられました。やはり、その国の考え方には歴史的背景が深く関わっているのだと思いました。中国の考え方は、自国を強くしたいということでした。それは決して悪いことではないし、ASEANやARFなどの機関を友好活用して平和的解決を目指すべきだと思いました。』



8. チームミーティング

課題1. 「レインストーム」(創作ボディパーカッション)

1つ目の課題は、例年行っている“創作ボディパーカッション”に取り組む。五線に書かれた楽譜ではなく記号や絵で楽譜を作り、体を使ったり身近な音素材を利用してストーリー性のある作品づくりを行なうという課題である。

先に“レインストーム”という既成の曲を使って説明を行う。次にチームで楽譜制作と音探し、演奏の練習を30分で行い、発表会を行う。各チームの演奏タイトルは「海辺の朝」「ニューヨークインザファイヤー」「先住民族の雨乞い」「小人の冒険」「お化け屋敷」「森の日常」「森をぬけて」「WC」など様々な視点で、身の周りにあるものを工夫して用い、ハイレベルなものとなった。事務局、サポーターが審査員となって、楽譜賞、演奏賞を決定し表彰するのだが甲乙つけ難かった。

塾生達はアイデアを出しあう内に打ち解けていき、すぐに様々な音の出し方を模索し始めたチームや題材決めにこだわっていたチーム、楽譜を書く人と演奏を練習する人で役割分担をしているチームなど、それぞれがどんなチームなのかを知ることができた。

30分でアイデアをまとめて楽譜作り、演奏練習をするのは時間的に少し厳しかったと思うが、与えられた時間内に仕上げるということの大切さを知ってもらった機会にもなったかと思う。賞をとれなかったチームも残念だったと思うが、学び得たものは多かったようだ。



塾生の感想

『チームの心が1つになったことが本当に感動しました。また出会って2日目とは思えないほど皆まとまっていて、意見も活発にでて、不思議と大きな喜びを感じました。この気持ちは一生忘れないと思います。そして明日からのチームミーティングも今日よりも積極的に取り組んでいきたいです。』

『初めてチームが一致団結できた気がします。みんなの意見を1つにまとめて、演奏でも楽譜でも2位をとることができたので、総合優勝した気分です。そして身体や道具だけで色んな音が出せる面白さ、頭をひねって「こんなの？」と楽しく考えることができました。』

『皆でテーマに沿った音を物などで表現して完成させるということで、身の周りの物に対しての考えが少し変わった。喋る以外の伝え方を学ぶことができよかったです。1つのテーマに向かって、皆が自分の役割をはっきりさせつつも1つの作品ということのを忘れずに取り組んだことで協調性も身につき、仲も良くなったと思う。』

『音楽レクでは、昨日より皆に提案や声かけができたと思います。ボディパーカッションをするのは初めてで、とても印象的でした。音を作るということ、また楽譜を絵で表すということが新鮮で楽しかったです。班によって色んな音、奏でる人によって同じことをしていても違う雰囲気になっていたのので、聴いていて飽きませんでした。大人数で1つのリズムを作り上げることによって心が通い、より仲が深まった気がします。』

『自分達の身体や身近なものを使って音楽をつくり、僕たちのグループは「小人の冒険」というテーマで演奏をした。あまり時間がないながらもグループ内で協力し、うちのチームらしい演奏ができたと思う。例えば、ムードメーカーの子の一音でぱっと始めたり、女子の団結力をベースにチームがまとまっていった。入賞はのがしたが、その時できるベストでやったと思う。』

課題2. 「チームCMをつくろう」

2つ目の課題は、昨年に引き続き「CM制作」を行った。最大60秒でチームの目標や個性などを表現した紹介CMを制作するというものだ。60秒という「時間」とカメラのレンズに写される「画面」という2つの枠のなかで、いかに表現し見る人に伝えるか、企画力、構成力、そしてチームの協力が必要となる。

制作スケジュール

- 20日(3日目) 朝 導入と説明、ラフ案
午後 企画書、絵コンテ作成、役割分担
夜 撮影開始
- 21日(4日目) 朝 撮影
午後 全チーム映像提出、監督による最終確認

制作は、ハンディビデオカメラを用いて行う。60秒の時間内はいくつの場面があっても良いが、チームでパソコンによる編集は行わないこととし、撮ったままの映像を事務局へ提出し、監督を務める塾生の指示のもと撮影した映像を繋げる。

単にカメラの前で喋ったり歌ったり踊ったりするのではなく、カメラの機能や画面の構図、また遠近法などを用いた見え方による工夫、環境など、創造力を発揮してくれることを期待した。

課題を伝えた時の反応も良く、作例として、今年の塾生達が制作した「作品賞」を受賞したCMを皆に見せた。それに触発されたらしく「負けにくい良い作品」を作ろうという意欲が伝わってきた。

チームによって進行具合は様々で、すでにチームの協力体制、話し合い体制ができていてスムーズに企画、コンテ、撮影と進んでいくチームもあったが、「アイデアは出るけどまとまらない」「時間がない」「班員の中で取組方に差がある」など色々な問題がおこっていたようだ。サポーターが発破をかけた部分もあったようだが、塾生が自分達で解決し、乗り越えていくうちに班としての団結力が高まっていくのを見てとれた。

表現したいこと伝えたいことをしっかりと持ったチームは、撮影もスムーズに終わり、空き時間ができていた。逆に、話し合いが最後までうまくいかず、「何がしたいか」チームとして意思統一ができないまま闇雲に撮影



をしているチームは、60秒という枠を考えていなかったり、途中で変更したり、撮ったシーンを結局使わなかったり、完成に時間がかかってしまった。

また、チーム名の由来や定められた目標が具体的なチームの方が、企画やストーリーを立てやすかったようだ。語呂や思い付きでチーム名をつけたチームほど苦勞していた。

CM制作は、ミーティング2つ目の課題ということで塾も後半に差し掛かるタイミングで着手し、よりチームの結束力を高めることができた。昨年はミーティング中にチームの意見がぶつかりあい、できなかったチームがあったが全チームが締切時間までに完成させることができた。制作の様子からはそれぞれチームの成長度も見てとれる。作品は、そういった制作過程も表しているような、チームのカラーの良くでた素晴らしい作品に仕上がった。完成したCMは発表会・卒業式に先行して上映を行なった。お互いのCMを褒め合い、「もう少しこうすればよかった」など反省しながら、笑顔で作品を見ている様子は皆達成感に溢れていた。

今後について

やはり時間のなさが問題である。時間内で仕上げるために早起きしてリハーサルや撮影を行ったチームの中には、頑張っって講義を受けてはいるもののウトウトしてしまう姿がみられた。また、朝早くから夜まで制作をサポートする事務局スタッフやサポーターの負担が大きかった。課題の内容にあった時間の確保とスケジュールの組立が重要である。またCM制作にこだわらず、塾生達の感性を磨き、未来塾ならではの課題を考えていきたい。



塾生の感想

『僕らのチームはみんなのアイデアが絶えなかった。それもただ方向性がなくアイデアを出すのではなく、みんな良いところを認めながらよりよいものにしていくために付け足すようアイデアを出した。だから方向性がすごく明確だった。やっていてすごくやりがいがあった。今年で一番イキイキしたかもしれない。気後れしている人は誰もいなくて、こんなに話し合いで弾んだことは今までない。』

『自分としてもチームとしてもとてもいい経験です。僕は常に他人が思いつかないようなアイデアマンになりたいと思っています。今回は僕のアイデアが採用され、そこにチームのアイデアが加わりとてもいい作品になると思います。』

『学校の文化祭とは異なり、画像編集は行わない。ここで本当に工夫する力が問われると感じた。グループ名に定められた意味をどう伝えるかということが議論の焦点となった。このCM制作はチームの思い出作りになると思う。何よりも限られた時間と技術でいかにわかりやすく心に残るCMを作るかということを深く考えることができた。』

『なかなかアイデアが出ないかなと心配だったけど、意外とさくさく決まっていって楽しかった。制作中は話がかみ合わなかったり、ぶつかったこともあった。人の考えは十人十色であるからそういう自分には受け入れられないような考えも1つの意見として受け止める勇気が重要だと感じた。』

『初めてチームの団結を感じました。やっぱりなにか1つのことをチームで成し遂げることで大事だと思いました。高校に入って、そういう機会がすっかりなくなり、男女が分かれ好きな子だけで固まって、そうしたことで自分の意見を持つ子が少なくなったり、周りを見れなくなった子が多くなったのではないかと思います。勉強することは大切だけど、未来塾のようなスケジュールのものをやるのも大切だと思いました。』

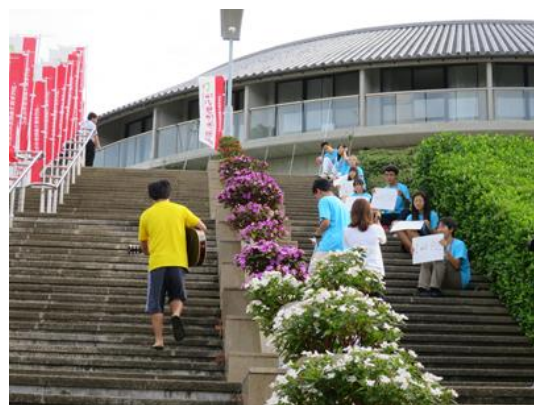
『企画書を書いていて思ったのですが、CMはいかに「シンプル」に主題を決められるかだと思いました。私たちは誰もが「このチーム、楽しそうだな」と思ってもらえるような自分たちも楽しめる作品に仕上げられたらなと共通して考えていると思います。そんな風と一緒に作りあげるのがとても楽しかったです。』

『このCM制作でチームの仲がぐんと縮まりました。正直聞いたときは「無理でしょ」と思ったし、なかなか思うように撮影が進まないときは険悪ムードになって「どうしよう」とあせることもありました。でもこういう限られた時間の中でCMをつくって発表するという目標のもと「少しでも良いものを作りたい!」という同じ志を持ってひたすらがんばることでこんな短い時間でも”絆”ってできるんだなと感じました。これは初めての経験です。きらめきに来て良かったと心から思った一日でした。』

『皆でアイデアを出し合って作品の理想像をかため、役割分担して理想へ向かっていくことの素晴らしさと楽しさを実感した、誰かの功績・失敗どちらも受け入れてより良い方向へ向かいチームの絆も深まっていることを確かに感じた。』

『時間をやりくりするのがすごく難しかったです、チーム全体で時間を合わせるというのがいかに難しいかわかりました。もっと計画をしっかり決めておかないとサポーターや撮ってくださる方々を不快な気持ちにさせてしまうし、失礼だったと思いました。皆少しイライラしてしまったのが反省です。細かい工夫はメモしておいて、一番に大きな流れ、ストーリーを考えて画面の使い方等を決めて、時間に余裕があれば細かいところをもっと工夫するという順にしないと効率が悪いと思いました。』

『うちのチームには、秀でた才能やみんなが面白がって注目する特徴や特技を持っている人はいない。だからCMの流れの軸とメインに何を据えるかでとても悩んだ。色んな方向に進んだり戻ったりを繰り返し、時には議論が詰まったりもした。しかしそこを乗り越え出した結論には他のチームにはない自分たちのチームがあると思っている。』



9. 2014年パネルディスカッションについて

総合司会：エデュケア・インターナショナル Inc 代表取締役 小松 としゑ 氏
(未来塾事務局アドバイザー)

パネリスト：一燈園小学校教諭 佐藤 由佳 氏

米国 Foothill College 山田 哲 氏

豊田市立保見中学校教諭 伊木 ロドリゴ 氏

「キャリア形成」について考えることを目的とし、パネルディスカッションを実施した。本年は全人教育に重点を置く一燈園小学校教諭 佐藤由佳氏、米国のコミュニティカレッジ Foothill College で学んでいる山田 哲氏、豊田市立保見中学校教諭 伊木ロドリゴ氏といった国内外で様々なキャリアを積む 3 人をパネリストに迎え、どのようにキャリアを積み、取り組んでいるかプレゼンをいただいた。



佐藤氏からは、自身の高校時代、日本一小さな私立学校 一燈園で学び寮生活をおくったことで得たこと、身ひとつで誰かの役に立つことができるという体験、「命の在り方について。与えられた命を、生かされて生きるということ。今、自分に何ができるかについて考えてほしい」。

山田氏からは、「日本にいと、高校卒業後、日本の大学に行って、企業に就職という道に行かないといけないように感じます。しかし、進学校で皆が国公立大学や有名私大に進む中、アメリカ留学という道を選ぶことではまだまだ沢山の可能性があるということを知ることができました。大学受験で全てを決めるのは無理ですし、やりたいことも変わってきます。色々なことを見て経験してください。このキャンプは素晴らしい機会です。これからも自分にはまだまだ可能性があるということを忘れず学んでいってほしいです。」。

伊木氏からは、ブラジルに生まれ 10 歳で来日し日本の大学に入って教師になったこと、高校時代に白血病を患って「なぜ生きたいのか」考えたこと、「なぜ勉強が大切なのか、テストのためだけでなく、将来のため、仕事のために勉強すること。日本の大学はだれでも入れるが、何がしたいのかを学ばずに卒業してしまう。多くの学生は名前で会社を選んでしまう。人に出会うため、将来を考えるために時間を使ってください。好きなことを見つけてください。なりたいものになってください。

”Carpe diem”一日一日を最大限に生きてください。」



プレゼンを受け、パネリストとともにランダムに選んだ塾生を3チームに別け、「グローバル社会の中で、日本人として活躍するために必要な事とは」をテーマにディスカッションを実施した。

グローバル社会を迎え、日本国内においてもグローバル化は避けては通れないものとなっている。日本人として国際社会で活躍するために必要となる心構え、姿勢、能力、教育について、パネリスト、ファンリテーターともにディスカッションを行った。チームディスカッションを円滑に進めるために、ファンリテーターをサポートに担当してもらった。

ディスカッションの内容は、パネリストのキャリア、仕事観により観点が異なり、それぞれの分野で議論が深まった。

本年度より、留学生の参加と入塾の条件を英語でのディスカッションをできる程度としたことから、1チームを英語のみで進行した。

チーム別ディスカッション

A チーム:「命」について

パネリスト :佐藤 由佳 氏

ファンリテーター :京都外国語大学外国語学部国際教養学科国際ビジネス専攻 3年生
広野 友紀子 さん

B チーム:英語について

パネリスト :伊木 ロドリゴ 氏

ファンリテーター :大谷大学文学部 教育・心理学科教育学専攻 2年生
パロスペレイラ 海王 さん

C チーム:キャリアとは

パネリスト :山田 哲 氏

ファンリテーター :国際教養大学 グローバル・ビジネス課程 4年生
檜木 望史 さん

総合司会の小松氏より、「各パネリストとのチームディスカッションもテーマごとに塾生の意見が交わされ、塾生それぞれに今後のキャリア形成について知る機会になったと思う。これからも、多くの出会いから学び、より幸せに Be Happy、より健康で Be Healthy、より前向きに Be Positive、自信をもって Be Confident、成功を目指して Be Successful。パネリストから学んだことを参考に自分の道が続けていきましょう。きらめきに参加できたことを FAMILY に感謝しましょう。FAMILY の頭文字は Father And Mother I Love You になります。」とクロージングいただいた。

今後について

昨年の反省を踏まえ、チームに別れパネリストとディスカッションすることで、全員の参加の意識を高めるものとした。結果、パネリスト、また塾生同士の意見からキャリアを含め、人生において何が必要となるかなど、多くのことを得たことが上記の感想から推察される。

パネリスト3人に対し、塾生が75名であったことから、1チームが25名編成となってしまったこと。また、1つの会場で3チーム同時のディスカッションとなったことから多重音声となり、聞き取れないケースが発生した。また、積極的に参加しない塾生も見受けられた。

こうした状況から次年度については、スモールグループ編成とし、ワールドカフェ方式を取り入れるなど、よりディスカッションを深める方式を検討したい。

高校生では、グローバル化とはどういうものかまだ意識はしていないが、ディスカッションを通じ、どういふものか、また、何が必要となるか「気づき」の場となったことは確かなようである。



塾生の感想

『活発な意見交換が行われたという印象だった。特に、日本人として世界に出ていくと、世界の中で日本人が重要な位置を占めるために何をすべきかと考えた。やはり、言葉の壁は自分自身も感じたが、日本の良い部分、悪い部分を世界に向けて発信できるようになりたい。』

『本当に良い時間でした。リスニングの練習にもなってよかったです。“日本人として、日本の文化をまず理解すること”“他の文化を受け入れること”等たくさんできることがあります。一人の男子が言った“なぜ世界で活躍する必要があるのですか？”この質問は難しく、答える価値があると思うのでじっくり考えたいです。』

『今まで命についてあまり深く考えることがなかったけど、今日のパネルディスカッションの3人の方のお話を聞いて、自分が今生きていることは奇跡だなと感じた。そして自分の生きている1日1日を大切にしないといけないと思った。』

『佐藤先生とディスカッションして、いのちの重さ、Something Great など、自分は何千というものの中から生き残った。苦しいこと、辛くて耐えられないと思うことがあっても、やっぱり、それでも生きていく。すぐに前向きに生きていけるのかなと思いましたが、でも、今日のディスカッションで、何か少し変わった気がします。これからの自分に絶対に生かしていきたいと思います。』

『「身一つで人助けをする」という言葉が印象に残っています。また、「今も死へのカウントダウン」という言葉に衝撃を受けました。確かにいつ死ぬかわからない状況で、日々を必死に生きていかなければならないという思いもあります。これから自分の中で、どう生きるかそのラインを見つけていきたいです。』

『なかなか意見がまとまらないほど、意見が多くでした。その中で「なぜグローバル化社会に対応する必要があるのか」という前提を覆すような意見が出て、印象に残りました。ほかのチームの見解を聞き、人それぞれ“異見”があり、今日初めて多くの考えを聞くことができました。』

『自分が思っていたよりたくさん自分の意見を伝えられたと思います。英語でやって、伝えきれなかった部分もあるので、英語力を上げることはすぐにできないけど、言おうとすることは止めずに、何とかして伝えようと思いました。自分と似た意見や案もあって共有することができて、とても有意義な時間でした。』

『テーマが難しすぎて、英語の前に答えることに苦労したが、グローバル社会で日本人としてできることについて議論し、みんなの意見を聞け、自分の考えと比較して将来のことを考えるよい機会となった。』

『みんなどんどん発言すると、迫力に負けて泣きそうでした。日本にいながらカルチャーショックでした。とにかく思ったように発言できなくて、人の発言が理解できる、自分の意見を発言できるほどの英語力がないので、まずはそこを鍛えようと思いました。』

『一番自分の中で深く考え込みました。国が海外の子や、滞在していた子が多く、日本人として、外国人としての価値観、考え方をもって、自分の知っている今いる世界が小さいなと少し落胆しました。外国語が話せたら全てうまくいくのにも思ったことは多々あるし、ゴールともしたいと思っていましたが、得たことが多く、一番印象に残ります。』

『グローバル化についてのディスカッションは印象に残りました。日本人はグローバル化の問題と解決方法を深く考えがちです。私は、時々外国人の物の見方で見るとは良いことだと思います。私と今回一緒に参加した留学生は、それぞれの経験や社会、教育が全体に違う環境に問題があるのだという感じました。』



10. 茶道研修について

「歴史や文化を理解し、人間的魅力のある心深き人を育てる」という理念から、茶道研修を実施した。また、自国の文化を知り理解することは、グローバル人として国際的な議論の場に参加するためにも必要なことである。

洲本市教育委員会のご協力のもと、裏千家流の富士八千子先生と、社中の方々を講師として招きお茶・お菓子のいただき方の作法と所作をご指導いただいた。

塾生数が75名と大人数なため、全体で茶道の道具についてなどの説明を受け、その後2つのユニットに別れ研修をうけた。ユニット1（ABCD チーム）は、前半で実際にお茶とお菓子を頂きながら所作などを習い、後半は礼儀作法や「和敬清寂」などお茶の心得について習った。ユニット2（EFGH チーム）はその逆の順序で研修を行なった。

前半と後半でユニット1は研修会場から和室へ、ユニット2は和室から研修会場へ狭い廊下を通過しての移動を行ったため、かなりタイトな時間設定となってしまった。他サポーターの誘導でスムーズな移動が可能になりタイムロスは小さく抑えられた。大人数での実施であることと時間の都合により前半後半共かけあしでの説明となり、塾生にとってもあわただしく終わってしまったように感じた。本来であれば清寂の中で心を整えるものであるが、かけ離れてしまったことは、今後検討の余地がある。

しかし、塾生の感想を見ると、この研修のねらいと日本文化の「心」は塾生達に届いていたようである。事前にあった下垣塾長の講義「多文化共生論」も踏まえ、茶道研修の一番の目的である自国 日本文化を尊び理解することの大切さを学んでくれたようだ。また男女共に先生方の話し方や所作などにも感銘を受けている塾生も多かった。



塾生の声

『静かでピリリとした雰囲気がある。茶室に入ったら気持ちが落ち着く。日本の文化は「心」を大事にしていると思う。また柔道、剣道、茶道など「道」という文字がついている。僕は心のあり方が日本文化の根底にあると感じた。それを理解できるから日本人らしさである思いやりの心などが生まれるのだと思う。』

『茶道をはじめて習ったが、美しく丁寧な所作、おじぎ等一つ一つに意味があること、そしてそこにあるおもてなしの心にとっても魅了された。お菓子やお抹茶も見目がきれいで、おいしかった。講師の方々は多くがお歳を召していらっしやっただが、着物をとてもきれいにきており、おしとやかですてきだなと思った。』

『ゆったりとした時間で気持ちが落ち着いた。作法の一つ一つにはお茶をたててくれた人に対する感謝の気持ちが表れているということを知った。』

『「和敬清寂」という茶道の心得が最も印象に残っている。それぞれ「和み」「尊敬」「清い」「寂静」など、熟語を想像すると分かりやすく、日本の和の精神を肌で感じる事ができた。作法も大切だが、その根本には心があるのだと知った。』

『学校で一度茶道研修をしたことがありましたが、新たに学んだことが沢山ありました。やはりきらめき未来塾に来て、グローバル化や多文化の共生についてディスカッションする中で、自分の文化を知る大切さについて考えさせられました。もっとこういう研修に取り組んで自分の文化、アイデンティティについて知りたいと思います。』

『学校の茶道部の発表などで、茶道については少しだけ知っていました。今日はさらに詳しく教えていただき、“和”の魅力を感じました。茶道の“おくゆかしさ”“礼儀”に触れることができ、日本人として大切な“和”の心のすばらしさが再確認できました。自分にとって大切な体験になったと思います。』



11. コミュニケーションづくりについて

「アイスブレイキング」(8/18 研修会場までのバス移動時間に実施)

前田嘉昭 講師

サポーター：宮地賢和、石松千咲、高崎翔平、阪本孝平、吉岡奏恵、

全国から参加する高校生達は、新大阪駅に集合し、バスで研修会場に向かう。初対面の人ばかりで、話のきっかけをどうするのかなど、これから始まる塾生活をどう過ごすかという不安な気持ちをリラックスさせ、交流が促進できるように、「アイスブレイキング」としてゲームやクイズ、合唱などをバス内で行った。

前田講師とレク担当サポーター、音楽レクのサポーターが各バスに乗り、レクリエーションと音楽・合唱を前後半交替で行った。

レクリエーションは、ベテランレクサポーターをリーダーに、レクを担当するのが初めてのサポーター2名が担当。2人共、卒塾生であるので雰囲気や要領は掴みやすかったのではないかと思う。内容は、キャンプファイヤーで行う手話歌の練習、開催地に関するクイズ、じゃんけん大会等。じゃんけん大会はレク担当以外のサポーターを指名して行い、サポーター全員が協力して盛り上げることができたので、塾生に早く顔を覚えてもらう上でとても良かったと思う。

音楽は、キャンプファイヤーの時に歌う合唱練習を中心にバスレクを考えていたが、塾生同士がまだ出会って間もない時なので、まず雰囲気づくりのため、「名前リズムうち」を行った。例年やっているが、呼んで欲しい名前(あだ名)とチーム名を自分で考えたリズムにのせて順番に言っていく自己紹介ゲームである。マイクの接触が悪かったため、地声で行ったが、今年度は朝から元気な塾生が多く、大きな声が聞こえていた。

塾生達は、当初は緊張している様子だったが、レクや音楽が始まるとすぐに打ち解けている様子を見せていた。サポーター達は補助席を利用して塾生の中に座るなど、昨年よりもレクが盛り上がりやすい環境作りが出来ていたことも効果があったのだと思う。結果として、4泊5日の合宿はとても良い雰囲気でスタートを切ることができた。



塾生の感想

『初めて出会った人でも、音楽や簡単なゲームを通して心が通じ合い、仲良くなれるということも学んだ。全国各地から多種多様なバックグラウンドを持った人が集まってきていて、刺激的な出会いだった。』

『最初は隣の席の子を会話がはずまなくて困っていましたが、レクリエーションをしていく中で仲良くなることができました。また音楽を皆でうたったり、手話を習ったりして周りの人を交流することができて良かったです。』

『サポーターのみなさんがゲームや音楽などのレクリエーションを工夫して進めて下さって、塾生のほとんどが心から楽しめていたと思います。じゃんけん大会やクイズで勝者が自己紹介をするという流れは良かったなと思いました。また手話のレクチャーを受けることができました。とても貴重な時間でしたし、少し手話に関心をもつことができました。』

『サポーターの方々が盛り上げてくれたので、知らない人ばかりで不安だった私は楽しかったのもそうですし、これから始まる塾に向けて期待を高めることができました。私は音楽が好きなので歌ったりリズムをとったりしてとても楽しかったし、バスの中でも皆と一体になれたような気がしました。手話を交えた歌は久しぶりだったので、完璧にして歌いたいなと思いました。』

オリエンテーション (8/18 夜に実施)

初日の夜はオリエンテーションを行った。内容は以下のとおり。

1. 事務局長挨拶
2. 事務局員、サポーター自己紹介
3. 塾生心得、合宿生活における注意事項
4. 講義、ディスカッション、夜の課題について
5. 質問シート、名刺について
6. チームミーティング
(自己紹介、チームリーダー、チーム名決め)
アイスブレイキング (全体で自己紹介ゲーム)



上記3～5の項目は、きらめき未来塾の塾生として、どのような心構えで研修に臨んでもらいたいのか、生活態度や施設に対する注意事項、学習に関して、講義などスケジュールの流れ、チームワークや取組みの姿勢などを採点する「K (kappatsu) 報告」について説明を行った。

名刺は、塾生同士のコミュニケーションツールとして配布。チームミーティング時に社会人サポーターがチーム生に使い方を教えていたので、全員の前に出て、名刺の渡し方についてレクチャーしてもらった。

チームミーティングでは最初に自己紹介を行った。事前に「自分のキャッチコピーを考えよう」という課題を出し、発表してもらった。短い文章で、初対面の人に自分の性格、特徴を伝え、いかに自分に興味を持ってもらうか、なかなか難しい課題である。最もチームメンバーの心をキャッチした自己紹介は、翌日全員の前で発表を行った。次々に発表し、笑いが途絶えない。「どういう意味?」「なんでそんなのにしたの?」など、話が盛り上がりキョリが縮まる。

チーム名は、与えられたアルファベットを使うことを条件に考える。この課題も事前に考えてくるように連絡をした。時間がなく慌てて決めたチームもあったが、5日間の目標がこめられた、カッコいいチーム名をつけていた。

レクリエーションは、OBサポーターの打合会で、企画と進行を依頼したところ、井東サポーターが立候補し、中心となって行うことになった。サポーターリーダーや他のOBサポーターにはフォローを頼んだ。

実施したのはバースデイ・チェーンというゲーム。言葉を使わず、生まれた月日の順番に円になるというゲームである。

緊張でカチコチになりながら、説明をした井東サポーターだったが、塾生達は、「自分の所属しているチーム以外と知り合い、塾生全体で仲良くなってもらう」というゲームの趣旨を皆すぐに理解して動いていた。

ジェスチャーで情報交換し並び、円ができると順番に誕生日を発表する。その後、誕生日同士で会話したり、誕生日を迎える塾生を祝ったりと盛り上がった。誰しもが持っている「誕生日」。元旦など特別な日であったり、同じ誕生日の人がいたり、その場にいる人全員が共通の理解と認識で楽しむことができる。4泊5日の合宿研修の導入の時間としては成功だった。



塾生の声

『今日一番印象に残ったのはバースデイ・チェーンです。チーム以外の塾生やサポーターの方々ともコミュニケーションがとれたので楽しかったです。またコミュニケーションはこの5日間を過ごす上での基礎になると思うのでその面では、とても良い時間になったと思います。』

『誕生日別に皆で並ぶゲームが印象的でした。初対面の人ともすごく自然に話すことができました。言葉を発してはいけないというのが達成感を盛り上げたと思います。今日と明日が誕生日の塾生を皆で祝ったのがすごく良かったです。このメンバーで5日間学べるのがすごく嬉しいです。』

『正直、もっと真面目な感じの時間が続くと思っていたが、「明るく楽しく皆でやっぺいこう!」みたいな居心地の良い雰囲気を感じることができてとても良かった。食事も美味しく良い環境なので次の日からも頑張っていこうと前向きな気持ちになることができた。』

合 唱

指導サポーター：石松千咲、高崎翔平

4日目の夜、キャンプファイヤーの最後に全員で合唱を行った。練習は、行きのバス、チームミーティングの時間を利用して行った。曲は昨年度と同様の「Believe」と「風になりたい」。

「Believe」は小学校や中学校でなじみのある曲であるとともに、「共生」をテーマにした歌詞で仲間とのつながりや未来を信じて進む力を歌っているため、このきらめき未来塾にリンクするところがあるので定番となっている。また今年はレクリエーションサポーターと連携して1番は手話つきで、さらに二重唱にもチャレンジした。

「風になりたい」は、今年で7回目の選曲になるが、サンバのリズムのボディーパーカッションをいれることで、キャンプファイヤーを盛り上げることができるので選曲している。この曲も知名度が高いため、練習がかなりスムーズだった。

塾生の感想を見ると「音楽が好き」という生徒が多く、朝の練習からとても大きな声を出して歌えていて、一回の練習でハモリもつけることができていた。またギターができるサポーターに伴奏をつけてもらったことで、より一層音楽に厚みを出すこともできた。

キャンプファイヤーの最後の歌の際には、リズムの手拍子に加えて、自由リズムの時間を4小節分つくったが、その時間は大変盛り上がっていた。手を取り合い、輪をつくり歌う姿は、この合宿でできた強い繋がりを感じさせてくれた。



塾生の感想

『印象に残った事は「Believe」を手話で表現したことです。私は手話は全く知らなくて、すごく難しいと思っていたけれど、実際にやってみるとジェスチャーのような感覚でとても覚えやすかったです。「風になりたい」は、歌ったことも、吹奏楽で演奏したこともあったけれど初対面の方々と合唱というのはとても新鮮でクラスや部活の仲間と歌うのとは少し違いました。』

『初めて会った人とても音楽で一体になれた気がしました。歌をみんなで歌うのはきれいじゃないので、これを通して友達との絆を深めようと思います。「風になりたい」は初めて歌うので、頑張っって覚えます。』

『音楽はリズムの付け方、歌詞に気持ちを込めたり、サンバリズムで楽しんだり、音楽の特徴に合わせて歌うと、また違ったものになるのだなと思いました。「Believe」の手話はテンポが早く追いつくのが大変でしたが、頑張ろうと思いました。手話には気持ちがそのまま表れているのかなと思いました。』

朝の体操

指導サポーター：宮地賢和、阪本孝平、吉岡奏恵

朝食前に体操やレクリエーションを行い、頭を使い、声を出し、体全体を動かすことで、しっかり目と頭を覚まし、一日のリズムを作る。ベテランの宮地ユニットリーダーを中心としたレク担当サポーターの指導のもと行なった。昨年の反省から、リーダーに天候による決行、中止の判断を任せ、そこから各宿泊場所のサポーターに連絡するという体制をつくったので、不安定な天候だったがその点も心配なく行うことができた。



体を動かすだけでなく、塾生同士のコミュニケーションのための時間でもあるので、2日目にはチーム内の男女の壁を取り払うためゲームを取り入れた。ばらつきがあったが、スムーズに溶け込んでいるチームもあった。3日目は、全体で交流するためのゲームを取り入れ一つの円をつくり、その後の手話歌の練習につなげた。また、前田講師がご自身で考案された「おんぶじゃんけん」、講義中椅子に座りっぱなしで固まった体をほぐすため、マッサージ教室なども行われた。



2、3日目は、宮地ユニットリーダーが中心で行っていたが、4日目は、初めてレクを担当する卒塾生サポーター2人が担当したり、また、宮地ユニットリーダーの指名で、他のサポーターにも前にでて体操をしてもらったり、手話歌の伴奏を行なうなど、サポーターのチームワークも良さも良い雰囲気を作り出し、塾生達のコミュニケーションの促進に繋がったかと思う。



今年度は集合に遅れてくるチームもなく時間より早く始めることができた。体操の時間は45分となっているが、移動や着替えなどを考えると、実際には最大で20分が限度となり少し短い感じがする。移動にかかる時間のロスを考えると、研修、宿泊、体操に使う場所の距離が近い会場が望ましいと思う。

塾生の感想

『Believe の手話の練習で、聴覚障害の人に自分の話したいことを伝えることの大変さが少し分かった気がする。これを機にもっと手話を勉強して少しでもそのような方々の手助けになればいいなと思った。』

『今日は朝の体操と人間知恵の輪がとても楽しかったです。体操は（前で指導していた）阪本サポーターと他のみんなとのリズムがあわず、時々笑ってしまうところがありました。人間知恵の輪では少し難しめにしてしまって腕がつりそうになりました。でもうまく解くことができて良かったです。』

バーベキュー・キャンプファイアー

最後の夜のイベントである、バーベキューとキャンプファイアーの時間は、野外学習を除く全てのカリキュラム、卒塾式を終え、達成感に溢れた笑顔を見せながら楽しい時間となった。

バーベキューには、河上和慶 洲本市教育長がお越しくださり、激励の言葉と差し入れの淡路島の牛乳をいただいた。塾生達のテンションはますます上がり、元気よく号令をし、各テーブルでワイワイと肉を焼き食べ始める。

途中、チーム名、チームCM、そして生活態度やチームワークの良さを表彰するK (Kappatsu 報告) の表彰を行った。事務局としては、どのチームも賞が取れるようにレク等を含め4日間を通し色々な項目で沢山の賞を設定している。しかし、賑やかなバーベキュー会場の中の発表だったため、チーム名を聞き間違え、違うチームが賞を受け取ってしまい、1つも賞が取れなかったチームがでるといふトラブルが起こってしまった。サポーターミーティング時に発覚し、最終日のバス内で訂正をしたが、やはり間違われたチームは賞がとれなかったものと落ち込んでしまっていたらしい。今後そのようなことがないように、事前に賞の該当チームをサポーター全員に伝えておく。またはチーム名を書いた紙を前に掲げるなど対策をしようと思う。

キャンプファイアーは、今年もチームの出し物はせず、宮地ユニットリーダーが全体の構成を考え、ゲームを中心に行った。「サポーターと塾生、事務局の一体」をテーマに考えながら組立て、内容はサポーターは勿論、卒塾式後のセッションのために来てくれたOB達も巻き込んだのプログラムだった。

「心は作っていくものです。火をつけた心を、これから行動することでますます熱くしていきましょう」と水野理事長がメッセージを送り、点火。塾生達の歓声とともにキャンプファイアーが始まった。

サポーター全員が積極的に参加しゲームを行い、塾生達もそれに応えて盛り上がる、きらめき未来塾に参加している皆が一体となり自然的に一つになれた素晴らしい夜になった。

場所の一部が崖のようになっていて落ちる心配があったが、サポーターが立ち防備していた。事務局の目の行き届かないところで、そのように自主的に行動をしたり、合間を縫って打ち合わせを行い、プログラムや担当を決めていたことなど、今年は、塾生だけでなくサポーター同士の連携、協力体制がうまく機能し、スケジュール進行上、大いに助けられた。宮地ユニットリーダーがキャンプファイアーのテーマに設定した「サポーターと塾生、事務局の一体」を実際に感じることができた。

塾生の感想

『BBQは最高だった。チームCMでまさかの優勝だったし、色んな友達とたくさん写真を撮れた。そしてキャンプファイアー。体全体を使ったのでかなり疲れたけど、めちゃめちゃ楽しかった。今日ほど楽しい日は初めてだ!!』

『色んな人から刺激を受けた4日間でした。一番の収穫は刺激を受けたことでこれから自分が何がしたいのかを改めて真剣に考えることができるようになったことです。もう少し時間をかけて、将来を考えてみようと思った。』

『BBQ、キャンプファイヤーでは最高潮に気持ちが高ぶって気分がすっきりし、いい気分転換になりました。塾から帰ったら新鮮な気持ちで頑張れると思います。』

『BBQはとても美味しかった。これほど旨い肉を食べたのは久々です。最高でした。キャンプファイヤーでは自分のエネルギーを炎に焦がすように踊りました。最高の時でした。』

『BBQは、それまでの食事とは雰囲気違って楽しかったです。賞の発表もあって、狙っていた絵コンテ賞はとれなかったけど、仲良しで活発賞をもらえてうれしかったです。実際に仲の良いチームだったのでそれが評価されてよかった。キャンプファイヤーは楽しくて、一瞬に感じました。未来塾全体を通して感じたことは、すごく1日1日がハードで内容が濃いということです。5日間だけだったけど、その間に本当に多くのことを学んだと思います。夜もすることが多くて日にち感覚が完全にくるってて、どこまでが今日の出来事だったのかも分からなくなりました。でも毎日毎日がすごく充実して楽しかったし、本当に参加して良かったです。』



12. 発表会・卒塾式

4日目、すべての講義を修了した後、チームミーティングを行い、きらめき未来塾で、個人として、チームとして何を学び、どのように成長できたか、そして今後それらをどのように生かしていくかという振り返りを行った。そして、1日目の織田講師の時間で学んだ「アフメーション」（自分のやりたいことを一人称・現在形で書き、あたかも達成したかのように表現する）を作成。アフメーションは、チーム毎に各自発表をし、全体発表会の代表を決める。今年は、昨年よりチーム数が増えたこともあり、男女各1名を代表とした。



この振り返り・チーム発表会の時間は、例年各々チームサポーターに進行を任せていたので、1時間半という時間の配分が難しく、振り返りシート記入や発表準備が終わらないチームがでてしまっていた。しかし今年は、サポーターリーダーに全体が時間配分など全体を仕切ってくれたため終了時刻になって慌てだすチームはなかった。

最初に各自が自身のアフメーション発表をし、代表者を決める。発表用の画用紙作成、チームのまとめを行う。そして今回は各チームで発表練習を行った。そのため本番では、発表会・卒塾式全体の進行がスムーズだった。

しかし、アフメーションを中々考えられない塾生が多く見られた。初日に織田講師の講義によってアフメーションとはどのようなものかを教え、4日目には各々が将来の目標についてのアフメーションを作る。それを初日に伝えてはいるのだが、意識している塾生は少なく、いきなり言われたように焦ってしまったり、夢、目標が定まらなく作れないといった様子が見られた。

夢や目標を持って未来塾に参加した生徒は良いが、漠然と考えているなか参加した生徒は4泊5日の未来塾で将来の夢を定めるのは難しい。もっと身近な目標からアフメーションで実践していったらどうだろうか。そういったフォローをサポーターが積極的にしていれば良いと思うが、きらめき未来塾初参加のサポーターは戸惑うこともあるようだ。しかし、セッションに参加するOB達もこのミーティングから参加し、手助けは心強かったのではないだろうか。

また今年はこの最後のチームミーティングの時間に、涙を流す塾生が多かった。理由は様々だが、4日間高い意識を持って講義や課題に取り組み、仲間達と向き合ってきたからこそだろう。

卒塾式は、発表と卒塾証書授与に先行して、チームCMの上映から始めた。塾生達はユーモアに溢れた作品には笑い合いながら互いの作品を讚えあった。その後、1チームずつ壇上にあがり、発表、そして下垣塾長から一人ひとり卒塾証書を受け取る。初日の緊張や不安の混ざった様子から見違え、達成感に溢れた表情は、塾生一人ひとりの成長、チームとしての成長を感じることができた。これからそれぞれの道を進み、夢や目標へと向かって更に成長をしてほしい。



13. OBセッション

参加OB

サポーター：井東直人、岸本樹、阪本孝平、山内美貴、吉岡奏恵、浮氣菜摘

21、22日参加：浅岡真菜巳、兼田寛大、清水彩花、田中大貴、谷井志保、盛一季美香

卒塾式後、昨年実施し好評であったOBセッションを今年も行った。昨年は、事務局が先導する形で行ったが、今年OBサポーターが、企画、メンバー集めまで行ってくれた。昨年参加したOBもいたため経験や反省を生かし、OBサポーターのリーダーが密に事務局に連絡をとりながら計画を進めたことで事務局の狙いを達せる内容となった。

内容について

塾生を6-8名の11グループに分け、各グループにOBが1名ずつ入り、8-10分間のセッションを3セッション行った。

グループ分けの方法は、OBのプロフィール用紙とアンケート用紙を1日目に配布し、どのOBの話が聞きたいか希望をとった。プロフィール用紙には、個性的な写真と共に、話題となるキーワード等を記載することで塾生が自分の関心のある話が聞けるように工夫した。セッションの形式については、各OBに任せたが、自己紹介をした後、挙手制で質疑応答を行ったグループが大半だった。

実施する際、グループ分けの移動が懸念点であったが、OBネームプレートと前方スクリーン掲示に加え、塾生が指示をよく聞き素早く動いてくれたおかげで、スムーズに行なうことができた。

セッションはどのグループも盛り上がっていて、話が途切れてしまうことがなかった。塾生の希望を聞いてグループを編成したこと、前もってトークキーワードが明確になっていたことにより、積極的に質問が出ており、塾生が進路とより真剣に向き合う機会を作ることができたと思う。昨年のOBセッションでは、OBに対しての各グループの塾生数が多く、声が届かなかったり、質問にあまり答えられなかったのが、今年、各グループの人数を減らしたことで皆の声が届き、発言しやすい良い雰囲気をつくることができた。

OB達にとっては自分自身について改めて見つめ直すいい機会となった。さらに限られた時間内にまとまった中身のある話をする練習となったようだ。また、この時間のために淡路島に6人のOBが駆け付け、OBサポーターと協力してセッションを行うことで、きらめき未来塾卒塾生達の絆の強さを伝えることができたのではないだろうか。



反省点、今後について

参加者から次の意見があった。

時間について、1時間という他のプログラムと比べると短い時間である上、卒塾式・発表会が長引いたため、OBセッションの開始時間が遅くなってしまった。事務局とOB達との伝達ミスで、本来予定していた通りの1時間の枠を短縮してセッションを行うこととなり、その結果、1人の質問に対して答える時間がとても短くなってしまった。

しかし当初の時間通りであったとしても、3回グループ変更をしてセッションを行なうには、1人に質問に対応できる時間が非常に短いので、時間の拡大またはセッションの回数を減らすことも考えられる。または、事前に塾生に質問を考え用紙に記入しておいてもらい、開始時にOBが用紙を回収して返答するなど、短い時間の中でもテンポ良く進める工夫も必要ではないか。

また、グループ替え時の移動など塾生を誘導する際の動きの確認や、OBセッションの意義や目的を全員が理解しトークの内容をより実のあるものするために、事前に顔合わせをする必要性を感じた。今回はその機会がなかったため、各OBがどのような話をするのか企画側が把握しておらず、かなり専門的な話になり塾生が理解できていないチームもあったようだ。自分たちが話すことによる塾生への影響の大きさの認識を共有し、もっと伝え方や内容に責任を持つという意識を持つことが大切だと思う。また、話すだけではなく写真などを活用するなど良いのではないだろうか。塾生にどのようにアプローチするか参加OB全員で話し合い、作り上げることができていたら、もっと素晴らしいセッションができていたのではないか。

参加したOB達にとっては、反省すべき点も多かったようだが、塾生にとっては先輩と交流し身近な将来の不安なことを聞いてもらったり、アドバイスしてもらえる貴重な時間となったようである。

事務局としては、OB達が積極的に動き企画・準備し、セッションの時間を作ってくれたことを嬉しく思う。ただ、特定の人に仕事量が偏り、塾中に睡眠時間を削ってグループ分けを行なう等、

負担が多く、準備期間も含めてフォローを行なう必要がある。また、セッション中、他のサポーターが手持ち無沙汰状態であったので、タイムキーパーなどの手伝い、またはセッションに参加してもらっても良いのではないだろうか。実施するタイミングも含め、検討したい。



塾生の声

『遠慮せずに何でも質問することができてとても良かったです。お聞きした情報を参考にして自分の将来の進路を決めていきたい。』

『OBの皆さんがそれぞれ自分の将来への考え方を持っていて、すごく尊敬しました。また自分もOB、OGとして戻ってきたいです。』

『自分の興味のある留学の話や、大学受験時代の過ごし方など内容の濃い話ができただ。特に岸本さんの「好奇心を持って勉強する」という話は、これからの受験勉強に生かしていこうと思った。』

『OBの先輩方はみんなキラキラした笑顔で私たちに話をしてくれました。私もこんな先輩方のように、これから自分が行く大学、就く仕事に自信を持てる人になります！そして、その年になった時、後輩にキラキラした自分で語ってあげたいと思いました。』

『未来塾で得た友達と今も関係が続いていて、お互いにいいライバルであると何人ものOBの方が言われていたことが印象に残っています。』

『自分たち高校生だけの会話では分からない大学のお話が聞けたことがすごく嬉しかったし、“自分もがんばろう！”と強く思わせてもらいました。』

『3人のOBの方に話を伺いましたが、3人に共通していたことは、何かしらのボランティア活動や生徒会活動をしていることでした。今、私は生徒会役員として活動していますが、ボランティア活動の経験はあまりありません。自分の住んでいる地域で情報などを見ておこうと思います。貴重な8分間でした。もっとお話したかったです。』

『私はまず清水さんの話を聞き、入っている「よさこいサークル」で色々な祭で活躍していることがわかりました。次に山内さんの話でボランティア活動について聞き、「学校だけでなく自らできるボランティアをすればいい」と言われ、挑戦していこうと思いました。最後に兼田さんの話を聞き、高校での勉強方法や部活動との両立について聞きました。自も運動部に入っているのも、とても参考になりました。色々聞けて本当に良かったです。』



14. 野外学習について

最終日の野外学習は、大塚製薬株式会社徳島板野工場の見学学習を行った。

大塚製薬は、「世界の患者さんへ新しい治療薬を提供する医薬関連事業」と「健康な人をより健康にする製品を提供する事業」の両輪で、革新的で創造性に富んだ製品の研究開発、生産、販売を行っている。今回見学した板野工場は「自然と共生」を工場コンセプトに掲げ、野生生物が観察できる自然林の中、生物の生息空間であるビオトープを設置し、人と環境にやさしい工場・地域に開かれた工場”をテーマにした事業を展開している。

到着時間が遅れてしまった関係で、短縮時間での見学となってしまったが、欧米でも通用する厳しい製造・品質管理基準を設けた製造ラインを見学させていただいた。工場の方の説明には最終日で疲れているにも関わらず、塾生全員が真剣に話を聞いていて、積極的に質問をする塾生も多かった。

野外学習は知識としての学習だけでなく一緒に見学したり、体を動かしたりしながら生まれる会話は、講義中とはまた違ったものがあり、塾生同士が交流をより深めることができるので、来年度以降も取り入れたい。

今回は、製造ラインなど工場内部の見学だけだったが、周りの自然林やビオトープなども見学できたら尚良かったのではないだろうかと思う。そうすれば前回、大塚美術館見学の事前学習を行ったように、塾中に関連学習を行なうなどして学習効果を深められたのではないだろうか。

つい息抜きや最終日実施が多いのでオプションのような形になってしまいがちな野外学習だが、講義との関連付け、事前学習の実施、何か課題を提示してフィールドワークのような形態をとる等より実のあるものとなるよう検討して実施していきたい。



15. 塾生について

募集について

本年度のカリキュラムは、「グローバル」という視点を強化することを目指した。塾生募集に関しても、「留学生」の参加を呼びかけようということになった。

理事会では、留学生募集枠を何人にするかが議論になった。「各チーム2人は入ってほしい」「あまり多すぎると日本のリーダーを担うという趣旨に反するのではないか」様々な意見がでて、さらには留学生の参加自体を懸念する声もあった。留学生は国籍を問わず募集するとなると言語の違いだけでなく生活習慣、食事などで、対応しなくてはならないことが出てくる。そのようなことをもっと検討していく必要があるのではないかと。

しかし、そういった各国の文化そのものが違いから生まれる塾生同志の意見、考え方の違い、そこから衝突が起こるということが、共に学ぶことは今後の国際理解に役立つのではないかと、そしてそれはが日本人としてのアイデンティティに気づくことに繋がるのではないかと。また、ある私立学校がマレーシアの子を受け入れた。そこで出てきたお祈りや食事の習慣を生徒皆でどうするか考えたことが、価値観や考え方など発見になったという例を挙げ、日本の子供と異なった価値観を持つ子と共に学ぶことは、とても良い刺激になるだろうと判断した。

そのような話合いを得たが、しかし現実の問題を考えると、夏休み中、留学生は里帰りをしてい人が多いこともあり、参加するのは難しい。もしかしたらゼロということもありえるだろうという事から具体的に募集人数などを設定せず、まず窓を開けてみよう、きらめき未来塾に興味・関心を持つ子がいるか案内をしてみようということになった。

結果として、インターナショナルスクール、スーパーグローバル指定校など、思い当たる色々な学校に案内を送ってはみたが、留学生の参加は難しく、最終的に大阪の私立校1校がニュージーランドからの留学生2人を推薦してくれることとなった。

一方、日本人学生の方だが、これまでは関西の教育委員会、私学連合の推薦を中心に行っていたが、日本私学連合会のご後援をいただき、全国の私立高校に広く募集を呼びかけた。また、集合場所も新大阪、東京、広島に加え、名古屋駅を設定した。

募集要項には、留学生も募集。留学生とコミュニケーションをとれる英語力を有していることが望ましいということを表記した。

また、応募に必要な作文のテーマを下記3つからの選択制にした。

- Q1. あなた自身（あなたの背景、あなたの考え方）について書いてください。
- Q2. 「日本」とは、いったいどんな国ですか？
- Q3. あなたは「科学技術」と「自然」のどちらが大切だと思いますか？

結果、推薦、一般共に募集人数を上回る多数の応募があり、書類選考の結果、69学校75名の生徒が入塾することとなった。

募集要項に留学生の参加、英語での講義の実施を明記し、ある程度の英語会話力を要する旨を記載したためか、留学経験者、海外ボランティア、帰国子女など英語を得意とする生徒の応募が多かった。参加都道府県数は開塾以来最多であり、方言、西と東の文化の違い。また公立、私立、全寮制、農業など専門的な勉強をする高校など様々な地域や学校からの参加で、高校生達にとっては十分なカルチャーショックであり、互いに刺激し合い、学び合うこととなったようだった。

学習の様子

今年の塾生はいつも以上に、意識の高い生徒が集まり、この合宿でひとつでも多くのことを学び取ろうという意識が見てとれた。

学習面では、講義後のどの講師に対しても質問が多くでて、質問の時間をもっと長くしてほしいと要望があった。これまでは質問の手がほとんど上がらない年もあったり、講義よりチームミーティングやキャンプファイヤーの準備の方に力を入れる年もあったのだが、感想を見ると、茶道研修などの時間を質問やディスカッションに当てて欲しかったという塾生もいた。

夜の課題に対しても真剣に取り組んでいて、提出された用紙を見ると自分の学んだこと、印象に残ったこと、感動したことなどが枠いっぱいぎっしりと書かれていた。毎年、1日のカリキュラムを終えて寝るまえのくつろいでいる時間に書いていることもあり、気楽な文面のものが多かったのだが、塾生達がカリキュラムを取り入れた意図や趣旨をしっかりと受け取り、それ以上に学んでくれていることが分かった。

講義、課題に取り組む姿勢は真面目な塾生達だったが、気になったことがスマートフォンやタブレット端末の使用についてだ。今では多くの高校生が携帯電話やスマートフォンを使用していて、塾ではそれらの使用を「講義の妨げにならないかぎり」可としていたが、今年はタブレット端末を持ち込んでいる塾生がいた。タブレットをノート代わりや、チームミーティングの際の板書に活用していた。また留学生達にはスマートフォンの辞書機能のみ講義中の使用を許可し、講師にも承諾をとった。

しかし、講義中時々タブレットで遊んでいるとの報告がサポーターからあった。そうなるタブレットは大きいから目立つがスマートフォンで陰で遊んでいる生徒がいることが懸念された。

そこで生徒指導の担当でもある前田理事から、自主的にそのような行為をやめるように促し、気を引き締めようと檄を入れてもらった。そしてサポーターにはそれぞれのチーム生に目を配るよう伝えた。

タブレット端末を使った授業なども行われ始めているようで、今後そのようなことは増えてくると考えられる。しかりやはり手でノートに書き取った方が、辞書で調べるほうが、塾生達の身になるのではないかとも思う。塾としてのルール作りをしていきたい。



生活の様子

今年は、塾生達を8つチームにわけ、ABCD チームをユニット1、EFGH チームをユニット2とした。1つのチームには2人ずつ担当サポーターを配置、それぞれのユニットにリーダーを設けリーダー中心に塾生達の情報を共有し合い、フォローし合いながら指導を行う体制をつくった。ユニットリーダー同志も情報共有を行い、事務局への連絡を行った。

このユニット体制がうまく機能していたことで、今年はチーム内での衝突も避けることができ個々の葛藤で涙を流す塾生に対しても、上手く対処していくことができた。

チーム内のコミュニケーションについては、最初は男子と女子が全然話さない、皆大人しくて意見が出ないなどという問題があったが、ディスカッション、ミーティングを重ねるにつれ、それぞれスピードは違うものもチームとして成長し団結していく姿が見られた。チーム間の交流も食事の時間には、1つのチームから「食事準備を効率よくするための提案」がされ、それ以降の食事会場では、その提案どおり役割分担がなされ、他チームとの協力体制も整っていった。男の子達はお風呂でゆっくり語り合うなどのコミュニケーションもとっていたようだ。

最終日に寝坊するチームや、鍵がなくなった、消灯時間に部屋にいない生徒がいる等諸々の問題はおこしていたが、遅れそうなら駆け足して時間もきちんと守り、生活態度も例年以上に真面目な塾生達だったと思う。



16. サポーターについて

ユニット制と役割分担

前述したが、今年は塾生のチームを2つのユニットに分け、未来塾のサポーター経験豊富で教員でもある2人にユニットリーダーを依頼した。サポーターは各ユニットに属し、リーダーから連絡や指示、塾生の指導に関するアドバイスやフォローを受ける。チームサポーターはチーム内で問題が起こった場合、病気や怪我などが出た場合、リーダーに報告をするという体制を作った。

結果、その体制はとてうまく機能していたように思う。毎年課題となっていた、サポーター間や事務局とサポーターのコミュニケーション、協力体制がしっかりとできていた。

塾生に起こる問題にも皆で共有しつつ対処することができ、各々の役割分担は勿論のこと、準備や配布物などがある時も自発的に動いてくれた。今年は事務局スタッフの人数が少なく終始慌ただしくしていたのだが、とても助けられた。

サポーターの役割は、塾生の学習のフォロー、生活指導の他に、講義中のPC操作、講師インタビュー、司会などがある。司会は、昨年は1講義ごとの交代で全員が行うようにしていたのだが、どうも向き不向きがあるらしい。今年は、事務局で人選を行い、2名が順番で行うこととし

た。人選が適格であったこと、そして合宿のリズムにも慣れ、講義の流れを掴んできたことでスムーズに司会進行が行われ、昨年のように事務局員がついている必要もなく、任せきりで行うことができた。

インタビューは、サポーターにとってもいい機会にもなると考え、全員が行えるようにしているのだが、インタビューを聞いてみると質問内容や数にかなり差がある。質問に関してサポーターに一任してしまっていたので仕方ない。

来年からは共通の質問を作る、講義内容に関しては必ず1つ入れるなど、インタビューの内容について枠組みを決めることで質と量を均等にしていきたい。

上記の他、今年は「留学生の通訳」という役割が増えた。留学生の参加はある程度の日本語理解ができることを求めているが、専門的な内容の講義などは理解することが困難だろうということから、2名の留学生をフォローする英語のできるサポーターが必要となった。卒塾生サポーターの留学経験者、京都外語大学生、秋田の教養大学生2名の計4名にその役割をお願いした。1名に対して2名が交替に講義やディスカッション時にフォローを行った。これはサポーターの負担が結構大きかったようだ。自分達も初めて受ける講義、それを全部通訳するのは体力も精神力も消耗するだろうと思う。塾生自身も日本人学生との理解の差で泣き出しってしまう場面があった。今年は2名という少ない人数だったが、次年度から力をいれ留学生の参加募集を行うなら、事務局、サポーターの受け入れ体制を整え、講義やディスカッション、配布物についてどのように対応するか検討していく必要がある。



ユニットリーダーからの報告

ユニット1リーダー 石松 千咲

今回、初めてチームを持たず、ユニットリーダーという役割を与えていただいた。私自身が、今まで参加させていただいた中でよかったことを統一して取り入れていくことができるように、チーム同士のかけはしになることができるように、事務局との連絡体制をより細やかに行えるように、という目標のもと初日を迎えた。

はじめに全サポーターをお願いしたことは、毎講義の席替え。何もしないでいると、いつの間にか座席は固定され、ディスカッションなどいつも隣の人が決まってきてしまい、発言する人とならない人の差が出る。それを避けるために全チーム共通で、できるだけ毎回席替えをしてもらうことをお願いした。事前会議でお話していたので、自宅からくじ引きを作成してくれてくれたサポーターもいて、講義のみならず食事場所でもそれが活用されており大変よかったと思う。

初日の夕食時、サポーターは一切指示を出さず、様子を見ることにした。時間はかかったが準備ができたので、ユニット1の食事会場では毎回各チームから号令係を出し、自己紹介・次の連絡とともに、号令をかけてもらうように指示した。「明日からみんなで協力してもっとすばやく全員の準備を整えてください。今日は少し時間がかかったね」とコメントをして食事を終えた。



次の日の朝食時は少し早くなったように感じていたので、特に注意もしなかったのだが、「ごちそうさま」の号令後、Aチームから「食事準備を効率よく準備するための提案」がされ、役割分担をてきぱきとこなしてくれた。それ以降の食事会場では、その提案どおり役割分担がなされ、次の集合時間の20分前には、食器の片付けや一時解散ができるようになった。

初日と2日目の朝はサポーターと塾生の席が別々にされていたため、二日目の夜以降チームと一緒に食べられるように配置を換えていただいたが、初日はサポーター同士も交流できた上、塾生の自立も促せたので結果としてはよかったのではないかなと思う。

講義後のディスカッションではやはり少し発言しにくい塾生や、意見がまとまらないチームもあったようだが、毎日のユニット会議で様子を把握し、次の日に入るサポーターが対策していく体制をとったので、チームによって温度差は少しあったものの、大きなトラブルもなくディスカッションができたと思う。

次年度からの課題は、入ったサポーターがチームのディスカッションを見ての感想や、よい点、次への改善点などをアドバイスしてから終わることができればよいと思う。そのような時間をとることができれば毎回ディスカッションのクオリティがあがっていくのではないかなと思う。

ユニット2リーダー 宮地 賢和

初めて班を持たない役割をすることになり、どのように行っていけばいいかと考えた。過去に参加して感じていた、サポーター間の壁や事務局との壁を少しでもなくそうと思い、積極的にコミュニケーションをとっていった。ユニット1・2間の情報交換や事務局との連携を深めていくことを5日間念頭においていた。ユニット共通の動きとして、講義のときの座席の移動を各サポーターにお願いした。

ユニット2の食事会場では毎回各チームから号令係を出し、自己紹介し、号令をかけてもらうように指示した。ごちそうさまのときに次の連絡をサポーターから全体にしてもらい食事を終えた。次の日の朝食時から早く来たチームがこちらの指示を聞かないでも準備をはじめていた。それ以降の食事会場では、早く来た班が準備をしているので全体的に早く集まるようになった。初日と2日目の朝はサポーターと塾生の席が別々にされていたため、二日目の夜以降チームと一緒に食べられるように配置を換えていただいたが、初日はサポーター同士も交流でき、良かったように思う。食事のときにチーム同士の交流ができるとよいと思う。

講義後のディスカッションではやはり少し発言しにくい塾生や、意見がまとまらないチームもあったようだが、毎日のユニット会議で様子を把握し、次の日に入るサポーターが対策していく体制をとったので、チームによって温度差は少しあったものの、大きなトラブルもなくディスカッションができたと思う。



17. 塾生の声～これからの目標

まとめシート：「未来塾で学んだことを、あなたのこれからの生活、学習または目標、将来の夢の実現のために、どのように役立てていきますか？」より抜粋

『これからの学校生活では積極的に友達と意見交換をしたり、授業では質問をするだけでなく、先生に様々なことに関する意見を聞いていこうと思います。また自分は世界の状況をあまり知らないということを知ったので、新聞を読んでいきます。これからたくさんの失敗をしたいと思います。その失敗からより多くのことを学び生かしていきます。たくさんの知らない人と友達になって、交流し、色々な人の考え方を知りたいと思います。世界でおこっている様々なことに関して、自分の意見を持っていきます。海外の人と難しい内容の議論ができるくらいの英語力をつけたいです。』



『4日間で9つの講義を聴き感じたことや印象に残ったことはたくさんありますが「自分にはもってできることがある」ということを学びました。今の私には看護師になるという夢があり、そのために看護体験やボランティアは人より多く経験しているつもりでした。しかし未来塾に参加してみると英語が得意な子、盛り上げるのが得意な子、意見をまとめたりリーダーシップのある子など様々な人がいて「自分はまだまだだな、自分もこうなりたい」という思いが徐々にできました。このことから経験を積むだけでなく理論的に考えること、能力を鍛えることを学びました。今からすぐにでもできることもあるので、日々積み重ねていこうと思います。チームとしての活動はとても大変でした。特に講義後のディスカッションです。初めて経験して感じたことは自己主張をすることがとても大切だということです。私は自分から意見を言う人間ではないので、とても困りました。私には自分の意見をまとめる力が不足していることがわかったので小さいことでも何かしら発言しようと思います。この塾に参加できて本当によかったです。支えてくれた仲間やサポーターに感謝しています。』



『一番印象に残ったものを自分なりにまとめると「自分の主張、発言を積極的に行い、国際理解をお互いに大切にし、今日よりも明日を追及し続ける」ことです。これを日常生活、学校生活、コミュニケーションの場、あらゆる場において、役立てていきます。またある講師のおっしゃった言葉を僕はこう理解しています。「大いなる行為には大いなる犠牲が伴う」と。例えば世界を一つにするという行為には文化という犠牲が少なからず出てくると思うようになりました。』



『この未来塾の経験を通して、いかに自分の視野が狭かったか痛感しました。多くの人と意見を交わし、自分とは違う価値観に触れ、人の考えを否定せずに受け入れることができるようになったと思います。』

人間関係を築くことがなによりも大切だと学んだので、これからは自分から率先して話かけていきます。先生方の講義を受け、新たな考えを吸収することができ、とても刺激を受けました。この刺激を日々の現実に戻っても忘れぬよう、家に帰ってもノートを読み直そうと思います。志の高い、別の方向を見据えている仲間と出会え、5日間を過ごすことができ本当に幸せでした。』



『私は未来塾で意見を発表し、交換しあう大切さを学びました。ディスカッションで意見を交換することで、さらに自分の意見が深まり考えられました。またこの未来塾で今まで迷っていた夢の一つにかためることができました。それは、いろいろな人とふれあい成長できたからだと思います。夢を見つけたことで勉強する意欲も湧いてきています。未来塾で全国の高校生とふれあい、All Englishでの講義、発表、ディスカッションとても衝撃を受けました。』

これからの生活で夢をかなえるために最終目的を忘れず、織田先生がおっしゃっていたアフメーションを生かしてこれからの学習や進路選択に役立てていきたい。さらにディスカッションでの自分の考えをまとめて発表したりした経験を生かして普段の学校生活でもそれを発揮したい。』



『私が未来塾で学んだのは「心を養うこと」に尽きると思います。ここで私が出会った仲間は十人十色の夢を持っていました。1人1人の話を聞く度、視野が広がっていき、その熱意に背中を押されました。グループで議論を繰り返す、真剣に意見を言い合う経験は本当に貴重なものでした。今の世界や日本の問題について協力して解決していこうという意識が高まった気がします。そして何よりも自分自身の考え方が確立されたように思います。思いを考え話すことで、それを聞きながら聴いてくれる人がいることで新しい自分を発見できました。』

この4日間で見つけたたくさんのことを夢に実現まで心にしまい、糧にして頑張っていきます。そして夢が叶っても私の原点であるきらめき未来塾を思い出し、新たな目標を探していきたいです。』



『2学期の始業式の日に関心のある学校で全校生徒の前で発表する機会があるので、まずはそこで自分が未来塾で感じたことをしっかり伝えたいです。またここでやったディスカッションをもとに学校生活で友人やクラスメイトと意見交流してみたいと思っています。この未来塾で1番感じたのは自分の知識が無さすぎるということだったので、中国と日本の歴史や未知の病についてなど、自分が興味をもったことを自分でどんどん勉強して知識を深めていきたいです。』

『私は将来、人と直接対面して話をしていく仕事に就きたいので、未来塾で初めて会った人に自分の考えている事を伝えられたという事を自信にして頑張りたいです。未来塾に参加したことで将来の夢を叶えたいという気持ちがとても高まったので思い通りに行かないことも沢山あると思うけど、最後まで夢をあきらめずに実現したいです。』

『この未来塾では人生、未来、政治など実に様々なことの知識を深めることができた。また意識の高い仲間との交流でとてもいい刺激になった。学んだことをこれからの人生に生かすために生徒の交流会に参加したり、セミナーに参加したりしたい。モチベーションをたもちつつ自分の考えを積極的に発信していきたい。このきらめき未来塾に参加して本当によかった。』



『私はこの未来塾に参加して、自分には何ができるのだろうと考える機会を作ることができました。また自分が苦手なこと、好きなことも見つけることができました。』

私は中高一貫校に通っているのですが新しい人と出会う機会があまりなく、未来塾での体験はとても新鮮で刺激のあるものでした。講師の方にお話を伺って夢を希望にしていけるにはどうすれば良いか、また自分の好きと思うことを見つけるのが大切だということなど、たくさんのことを学ぶことができました。自分の意見を持つこと、またそれを他の人に発信していくことはとても大切ですが、私達にとってはとても難しいことです。この未来塾に参加したことで、様々な意見や個性を持った人と会えたのはとても貴重な体験でした。』



『未来塾で学んだことの一つに”グローバル化”について。英語が話せる、中国語が話せる、それは別にすごいことじゃない。そこまでして、伝えたいことがあるのか？それが重要だ。それを使って何がしたいのかそれが重要だ。自分のために？家族のために？他人のために？僕は他人のために働きたい。』

『私はこの合宿にきて驚いたことがあります、それは夢をもった人が沢山いることでした。まだ高校生なのにあんなにもはっきりくわしく言えるのは本当にすごいと感じました。私は話し合いが苦手で、自分の意見が間違っていたらどうしようとばかり考えてしまい、いつも何も言わずに終わるのが当たり前でした。しかし同じ班の人達とディスカッションをして、私の意見を言わないことには伝わらないし、皆も否定しようとしなないと学ぶことができました。私はこれからの生活でこのような話し合いをするチャンスがあったら、今回学んだことを生かしてしっかり自分の意見を言えるようにしたいです。』



『未来塾で積極的に発表する大切さ、自分の意見を人に伝える大切さを学んだ。チームで協力することも学んだ。これからはもっと積極的になり、自分で考えて行動して将来の夢を叶えられるようにしたいです。このことを他の人にも話して皆がよくなっていくようにしたいです。前はディスカッションとか嫌いだったけど今はとても好きになりました。未来塾で学んだことを大学生活や就職した時にも役立てていきたいです。』

18. 保護者様の声（参加塾生父母アンケートより）

終了後、塾生の保護者にカリキュラム内容やお子さんの卒塾後の変化などに関するアンケートを実施。75名中45名の方にご解答いただいた。

1. お子さんから、当塾に参加された感想の報告を受けられましたか？また、そのことについてお子さんと話し合いをされましたか？

① カリキュラムについて

- ・学校の授業では体験できないようなカリキュラムで学ぶことが沢山あり、とても面白かったと言っています。また、一日を通して仲間と学ぶことが緊張感があり、刺激になったとのこと。
- ・講義の合間にチームミーティングがあったおかげで、ミーティングでチーム力を高めることができ講義やディスカッションで自分の意見を積極的に言えるようになった。
- ・朝の体操～夕食後の時間まで、毎日ハードではありましたが、全ての時間に無駄はなく、有意義に過ごすことができたそうです。
- ・茶道や工場見学等、色々な体験をさせていただき、何でも見るだけでは物事はわからない、体験して初めて深さがわかるのだと感じたようです。
- ・カリキュラムを手にした時は、とても驚いておりました。ハードスケジュールをこなせるのか不安の様でしたが、色々な体験を夏休みの5日間に一気にさせていただいて本当に充実した日々を送れて良かったと話しております。
- ・充実した内容で最高の時間を過ごすことが出来ました。ディスカッションをもう少し多くしたかったと言っていました。
- ・広い視野を持たせるために、多様な分野の講義をしていただいた様で、今までになかった自分を見つけ帰ってきました。

② 講義について

- ・沢山の有名な識者の講義を受け、色々な意味で見識を広めたようです。今までの自分の考え方と同じく、それを深めるもの、反対に全く思いもよらない講義の内容に驚き刺激を受けたもの、両方あったようです。
- ・自分達、若い世代がこれから何をしていくべきか沢山の学びがあったと話しています。また、自分の視野がどれだけ狭かったか、どうやって広げるのかがよく分かったとのこと。英語の講義は難しかったようですが、お友達に助けていただいたとのこと。
- ・学校の授業では、得られない講義内容に引き込まれ、難しいところも多くあったようですが、なんとか理解しようと一生懸命ペンを走らせたようでテキストには、補足が多く書き込まれていました。
- ・講義の前提となる本人の基礎知識が不足しており、内容が理解できなかった事があり、幅広い知識吸収の必要性を感じておりました。
- ・講師の方々には各界から来ていただき、講義それぞれに興味をもったようです。内容はもちろんのこと、プレゼンテーションの仕方やお人柄にも惹かれたと話していました。

③ ミーティングについて

- ・(チーム CM で) ゼロから作品を作るにあたって、みんなの考えを尊重することで話し合いが円滑に進み、チームとして成長できたと感じた。
- ・塾生の様々な意見、物に対しての見方の違い、色々な意見+話し合いを通して、1 つのものを作成していく、達成感を感じることができたそうです。これまで接してきた方々、友達とは違うので「学び」が多かったそうです。
- ・同年代の人とは思えない程、話の内容や頭の回転の速さ、順応力など本当に圧倒されたと話しておりました。その方々の中で話し合い、考えて結論を出していく行程は、これからの生活の場でも生かしていきたいと話しておりました。
- ・高校生になり、学校でディスカッションやミーティングという場がほとんどなかったもので、とても新鮮だったと言っていました。話し合うことの大切さを改めて実感したようです。
- ・日を追うごとにチームにまとまりができて、最高の仲間となり、本当に良かったみたいです。今も連絡を取り合っています。

2. 自分の進路や、自分の夢などに関して、何か話されていましたか？

- ・夢は実行を伴わなければ実現しない、失敗を成功の糧にするなど、目を輝かして話していた。また、英語の力が足りない！もっと頑張る！と言っていました。同時に語学力以上に「自分」をしっかり形成することが大切だと言っていました。
- ・自分のことより、他の方々の夢などが素晴らしく、自分ももっともっと勉強して成長していかないと置いていかれてしまう!!と話していました。関西方面のお友達ができただけで、同じ日本でも少し違った文化や考え方などもあった様で、お互いこれからも報告しあい、成長しえある仲間として仲良くして行ってほしいです。
- ・お互いに刺激し、高めあうことが出来たようで、今度会う時までにお互いの夢に近づけるようにと話したようです。
- ・色々な人と出会い、色々な人の意見を聞き、その中でまた自分の考えを固めていくことで、沢山のひとと出会い、繋がっていく仕事がしたいと。まだ「何か」は分からないようですが、今まで以上に留学など広い世界へ進んでいきたいと思ったようでした。
- ・今までと同じく変わらない目標に対して、さらに現実的に具体的に計画できるようになったようです。今回受けた講義では色々な知識見解、集団では社会生活の有り様をじっくりと考え、体感し、心で感じてくれたようです。

3. 進路や夢に関し、どのようなアドバイスをなされましたか。

- ・素晴らしい仲間と出会えたことについて感謝すること。世界は広いので情報を得るように。自分も努力していないとチャンスは失われるので、仲間に負けないように頑張っていくよう話しました。
- ・目標をたてたなら、それを実現するために今できる事は何か考えて行動を起こしてみようと本人と確認しあいました。
- ・高校2年という将来の進路を決めていかなければならない時期に大変貴重なお話や経験が出来て本当に良かったねと話しました。ただ思っただけでなく夢を実現するために、今日から具体的に実行に移すことの大切さについても話しました。
- ・進路に関しては、本人の勉強したいと思う気持ちを優先させたいとこれまで親として考えていたので、進路に向かう為に何をすべきかと話し合いをしました。まだ、決定ではなく、今の時点での夢なので変わるかもしれませんが、もう少し考えて応援していきたいと思います。
- ・自分の感じた様に世界はまだまだ広く、これから沢山の経験や知識も十分につけ、本当に夢が実現した時の大きな飛躍に繋がるよう準備しておくべきと話しました。

4. 来年の開塾に関し、ご子息からの感想などを踏まえ、保護者の立場から当塾へのご意見、アドバイスをお願いします。

- ・学校の「授業」というものを考えさせられました。素晴らしいカリキュラムだと思います。もう1コマ増えてもいいと思います。英語の授業はカルチャーショックを受けるものをいくつか入れたら面白いかもしれません。
- ・年齢的にも自らの周りにのみ影響されがちな時に、このような塾に参加させて頂けた事は本人にとってはもちろん、保護者としても感謝しております。参考図書は私も数冊読ませていただき、大変勉強になりました。貴塾のますますのご発展をお祈り申し上げます。
- ・グローバル企業の経営トップの講義、外国人の参加者比率を高めるなどにより、本塾の基本理念が参加者に培われていくようさらなる発展を期待しています。
- ・高校生にもなると自分で考えて色々と将来を見据えていかないといけませんが、普段の生活の中ではそれに気づかず毎日を過ごしています。未来塾に参加することにより友達や先生方のお話を聞いて自分を見つめる良いきっかけになりました。短い5日間でしたが得られるものも大きかったです。本当にありがとうございました。この活動が少しでも長く続きますように。
- ・沢山の講師の方々の話を聞き、自分の進路について考える良い機会だったようです、自分の周りの友人とは違う考え、特技をもった高校生に出会い、「こんなすごい高校生がいる」と話してくれました。2学期から新たな気持ちで色々な事に取り組んでくれることを期待しています。
- ・参加し、帰ってきた時に娘はかなりの刺激を受けていました。同年代の塾生と交流して、チーム、部屋で色々な話を聞き、視野が広がったようです。世の中は広い、そして可能性は無限にあるその為には自分の気持ちが大事だと気づいたようです。娘の気持ちを動かしたことはとても良いことだと思います。参加できたことに感謝しています。

19. 事務局総括～反省と来年に向けて

本年で淡路島での開催も三回目となった。未来塾開催前日に降った大雨の影響を受け、集合日当日に運休する路線があり、その影響を受ける参加者がいるという情報をサポーターから受けた。こういった天候や交通情報などの確認は事務局でも把握しておくことは大切である。新大阪での集合については、サポーターが塾生の誘導をしっかりとしてくれたのでスムーズに行えた。

バスの中では、最初は緊張していた塾生達もアイスブレイキングの講義やゲーム等でサポーターが盛り上げてくれたお陰で、時間の経過と共に緊張感が和らいでいった。

入塾式は概ね例年通り進んだが、新理事長と新塾長へは式の動きをもう少し詳細にレクチャーする必要がある。また、宣誓を担当する塾生へも、宣誓の原稿を書いてもらった段階で宣誓をしてもらう旨を明確に伝えるべきであった。

講義内容については、塾生からもサポーターからも大変よい内容だったとの感想が多かった。今年は、留学生が2名参加し、英語の講義やディスカッション等もあったが、英語のディスカッションのチームを希望していたのに希望通りにならなかった塾生がいたようなので、希望者を前もって把握しておく等の準備が必要かもしれない。また、英語を得意とする塾生ばかりではないので、英語だけの講義についていけず、気後れしてしまう塾生や、日本語のディスカッションの時に、日本語への理解不足で悔しい思いをする留学生もいたので、英語だけの講義について、参加留学生への対応については多方面での配慮が必要となってくるのではないだろうか。これからも英語の講義を増やすということであれば、準備する側へも課題は多く残る。

茶道研修については、多人数が受講するので2部屋で分けて交互に違う内容を受講することになっていたが、部屋から部屋への移動に手間取り、限られた時間の中での説明が駆け足になり充分に出来なかったようです。大人数で茶道研修というのは難しいのではないだろうか。

野外学習は、大塚製薬板野工場を見学した。楽しそうに見学している様子ではあったが、内容的には高校生には物足りなかったかもしれない。

パネルディスカッションでは、3人のパネリストの話がそれぞれにとっても興味深く、ほとんどの参加者が強く惹きつけられていた。テンポよく進んでいったので最初から最後までしっかりと聞くことが出来たのではないだろうか。OBセッションでも活発に質疑応答が飛び交っていた。

本年度はサポーターを2つのユニットに分け、ユニットリーダーを設けた。リーダーには、事務局からリーダーへ連絡事項をまとめて伝えてもらったり、他のサポーターへの指導やアドバイスなどをしてもらったりした。この結果、事務局とサポーター間の連絡がうまくいったり、サポーター会議がよりスムーズなったりして全体的にバランスのいい活動が出来ていたように感じる。

毎年ではあるが、猛暑の中、四泊五日の日程をこなすのは、参加者全員が体力的に大変である。

しかし、きらめき未来塾 2014 は、天候にも恵まれ事故もなく成功裡に終了した。講師の方々、サポーターを始めとして、協賛・ご寄付いただいた団体・法人・個人の皆さま、そして会員の皆さまから本当にたくさんのご協力をいただいた。感謝申し上げる次第です。そして、今年の反省点を来年に活かしていきたいと思います。



20. 事務局活動～きらめき未来塾 2014 関連

H25年 9月	<ul style="list-style-type: none"> ・理事会開催 ・2014年度役員人事決定（新理事長 水野彌一氏、塾長 下垣真希氏） ・きらめき未来塾2014について 会場 ウェルネスパーク五色、期間 2014年8月18日(月)～同8月22日(金)の4泊5日に決定。 ・開催初日に、10回目記念スピーチを行う、記念誌を作成する旨決定。
H26年 1月・2月	<ul style="list-style-type: none"> ・企画委員会開催 ・サポーターの構成、人数、研修について検討 ・塾生募集時期、募集要項について検討 ・カリキュラム内容検討、講師選定、パネリスト選定 ・きらめき未来塾2014ゴルフ大会企画・打合せ ・洲本市訪問（理事長、事務局長） ・きらめき未来塾2014チラシ完成
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・東京事務局打合せ ・濱本英輔特別顧問、野田智義特別顧問 訪問（事務局長） ・保険毎日新聞社掲載依頼 ・大阪府・京都府・兵庫県 私学連合会 訪問（事務局長） ・きらめき未来塾OB会開催（サポーター、OBセッション参加者募集告知） ・事務局打合せ（10回記念誌、ゴルフ大会などについて）
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・きらめき未来塾2014ゴルフ大会（4/10 読売カントリークラブ） ・第1次塾生募集開始 ・大阪府教育委員、兵庫県教育委員会、兵庫県庁訪問、京都府教育委員会訪問（事務局長） ・RCC文化センター、広島県教育委員会訪問（事務局長） ・京都市教育委員会訪問（事務局長、理事長） ・エース損害保険 サポーター派遣依頼 ・レクリエーションサポーター、音楽サポーター、学生サポーター依頼開始 ・各企業等に協賛、寄付依頼状送付 ・事務局打合せ（カリキュラム、サポーター、塾生募集 等について）
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・第1次塾生募集締め切り、第2次塾生募集開始 ・OBサポーター登録、説明会（於 事務局4階会議室） ・事務局打合せ（サポーター募集、合同研修会内容 等について）
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・第2次塾生募集開始 ・アフラック近畿総合支社 サポーター派遣依頼 ・サポーター確定 ・マニュアルの作成、合同研修会準備 ・事務局打合せ（事務局役割分担、資料作成、オリエンテーション 等について）
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・塾生確定（入塾証発送、学校教育委員会へ連絡） ・各講師資料の手配、準備 ・塾生、サポーターへの配付物、テキスト作成 ・事務局、サポーター合同研修会開催（於 スポーツドリームファクトリー） ・洲本市訪問、茶道研修打合せ（事務局長） ・事務局打合せ（チームミーティング、パネルディスカッション進行 等について）
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・10回目記念誌（きらめき未来塾10th Anniversary 完成） ・参加塾生、参加高校、後援各位へテキスト等 案内発送 ・会場への詳細連絡（人数、会場等） ・事務局打合せ（カリキュラム、資料、備品等、最終確認）
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書、DVD等作成 ・事務局打合せ（反省と総括） ・きらめき未来塾2014フォローアップセミナー（9/19 メルパルク京都）
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書、DVD完成 ・大阪事務局・サポーター反省会 ・東京事務局反省会
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書、DVD 発送作業

21. プレスリリース



きらめき未来塾2014

8月 淡路島で合宿研修実施

国際保険㈱の大石正守社長・名誉会長が発起人代表を務める認定NPO法人きらめき未来塾主催の「きらめき未来塾2014」が、8月18日から22日に兵庫県洲本市のウェルネスパーク五色で開催される。

同塾は、国際社会、日本、地域社会で活躍する有能な人材、将来的に日本を支えるリーダーを養成することを基本理念に行われる高校生対象の4泊5日の夏期合宿研修で、参加費は無料。

2005年の開始以来、今回で10回目を迎える。昨年(第9回)までの延べ参加者は345校、参加者は719人。11年には、同塾への寄付金が税額控除・所得控除の対象となる「認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)」の認定を受けた。今年もアフラック創業者で最高顧問の大竹美喜氏(同塾名誉塾長)による講話「リーダーとは、をほしめ、各異の第一線で活躍する講師陣の講義やディスカッション、レクリエーションのほか、チームビルディング、野外学習、発表会等多彩なプログラムが予定されている。

日本を担うリーダーを養成

← 2014年7月23日 保険毎日新聞

↓ 2014年8月2日 産経新聞

次世代を担う高校生のための「きらめき未来塾2014」淡路島で開催

これからの日本を支えるリーダーの養成を目的に、「きらめき未来塾2014～次世代を担う高校生のために～」が今年度も開催されます。



昨年度に引き続き、ウェルネスパーク五色(兵庫県洲本市)にて、8月18日(月)～22日(金)まで開催され、77名の塾生が参加します。この事業はアフラック創業者・最高顧問の大竹美喜氏を名誉塾長に、国際保険株式会社の大石正守会長が発起人代表となり、認定NPO法人きらめき未来塾(理事長：水野彌一・京都大学アメリカンフットボール部前監督)の主催により実施されます。10回目となる今回は、講師として黒岩祐治神奈川県知事ら各分野のスペシャリストを迎えて行われます。発起人の大石氏は、「この未来塾を通じ、高校生たちに夢や希望について真剣に考えてほしい」としている。

○お問い合わせ 認定NPO法人 きらめき未来塾
☎06-6357-3335

↓ 2014年8月20日 神戸新聞



「きらめき未来塾」で宣誓する高校生
|| ウェルネスパーク五色

育て次代のリーダー

高校生75人4泊5日で学習

で洲本未来塾

高校生が次代のリーダーを目指し、多彩な講義や議論に挑む。05年から毎年夏休みに開き、10回目。県内のほか大阪、京都、東京、千葉などから計75人の高校生が集まった。4泊5日の日程で、神奈川県の黒岩祐治知事ら多彩な分野の講師から話を聞き、法入きらめき未来塾(大阪府)の主催。同板野工場を見学したり、冒頭で淡路島の2年佐藤肇(さん)は「国籍や生い立ちの違いを互いに理解し協力し合えるようになりたい」と宣言。名古屋市の2年加藤聖花(さん)は「本校の教員になるのが夢だけれど、もっと視野を広げたいと思って参加した」と話していた。(長尾亮太)

次世代を担う高校生のための 「きらめき未来塾2014」 5日間の充実した日々が終了!



これからの日本を支えるリーダーの養成を目的とした「きらめき未来塾2014～次世代を担う高校生のために～」(産経新聞社後援)が8月18日(月)～22日(金)までの5日間、兵庫県洲本市のウェルネスパーク五色にて開催され、全国から高校生75名が参加した。

国際社会で活躍できる人材育成を目指し、国際保険株式会社の大石正守会長を発起人代表とする、認定NPO法人きらめき未来塾(理事長:水野彌一・京都大学アメリカンフットボール部前監督)が企画。黒岩祐治神奈川県知事をはじめ12名の多彩な分野で活躍する人が講義を行った。この他、チームディスカッションやバーベキュー大会、キャンプファイアも開催され、親交を深めた。参加した高校生は「講義を通じてたくさんの知識と考え方を学ぶだけでなく、同世代の人たちから、自分が考えていなかった視点を知ることができました」と語るなど多くの高校生が、参加者が互いに刺激し合うことで自らをさらに磨こうと意識していた。「きらめき未来塾」は来年度も実施される予定。

○お問い合わせ 認定NPO法人きらめき未来塾
☎06-6357-3335

↑ 2014年9月8日
産経新聞

高校生75人が集まり10回目の「きらめき未来塾」

高校生を対象に日本を支えるリーダーの養成を目的とした「きらめき未来塾」10周年を記念して8月18日から4泊5日の日程で兵庫県・淡路島のウェルネスパーク五色で開催された。全国各地の応募者の中から75人の高校生が選考され参加。アフラック創業者・最高顧問の大竹美喜名誉塾長や黒岩祐治神奈川県知事をはじめ経済や文化などさまざまな分野の第一人者が講義を行ったほか、ディスカッションや体験学習、レクリエーションを通じてグローバルな視点を養う充実の内容となった。きらめき未来塾は国際保険㈱・大石正守社長・名誉会長が発起人代表として設立。今回で10回目の開催となった。

日本のリーダー養成を目的に淡路島から4泊5日で開催



↑ 2014年9月3日
スポーツニッポン

「きらめき未来塾2014」

次世代担うリーダー育成 グローバルな視点を強化



アフラックのアソシエイト(販売代理店)国際保険㈱の大石正守社長・名誉会長が発起人代表を務める認定NPO法人きらめき未来塾(理事長:水野彌一・京都大学アメリカンフットボール部前監督)主催の「きらめき未来塾2014」が8月18日から22日にかけて、兵庫県洲本市のウェルネスパーク五色で開催された。グローバルな視点を強化したカリキュラム、全国69の高校から75人の生徒が参加した。

同塾は、国際社会、日念に行われる高校生対象本、地域社会で活躍するの4泊5日の夏期合宿研修有能な人材、将来的に日修で、参加費は無料。2本を担い支えるリーダー005年にスタートして以来、毎年8月に実施し

てきた。知識の修得だけでなく、参加した高校生がそれぞれ自分の将来の目標を見出し、自己実現のきっかけになるよう、セッションを高めるための講義、ディスカッション、レクリエーション、野外学習などをカリキュラムの中に取り入れていた。基本理念である「心強き人」「心清き人」「心深き人」「心広き人」「心熱き人」の育成を目的とし、本年度からは「グローバルな視点」を強化したカリキュラム作りで、塾生の募集もこれまで参加のなかった学校や地域にまで拡大。留学生の参加も募るなど、より多様な生徒が集まることで塾生同士が刺激し合い、学び合える塾を目指した。

今回は、106人の応募の中から選考された、1都2府10県の69校の75人(留学生2人を含む)が参加。きらめき未来塾理事・塾長補佐の前田嘉昭氏(大阪教育大学講師・大阪府立阿倍野高等学校元校長)に「マイアスプレキングに続き、入塾式、同理事・名誉塾長の黒岩知事、最高顧問による講義と「夢の実現」を促す「Never Give Up」を、織田善行氏(アドベンチャーコーチング社長)の講義「アフラックで未来を切り拓く」をもって

↑ 2014年9月1日
保険毎日新聞

1日目を終了した。2日、他、キャリア形成についてから4日目は、9つのパネルディスカッションや卒業生との交流、バーベキューなどがあり、板野工場を見学し、すべてを学んだ。5日目は野外でのカリキュラムを終了した。

22.

(1) 後援・協賛名義（順不同）

大阪府教育委員会	アフラック（アメリカンファミリー生命保険会社）
兵庫県教育委員会	エース損保株式会社
京都府教育委員会	（一社）関西経済同友会
広島県教育委員会	（一社）アスリートネットワーク
香川県教育委員会	洲本市
宮城県教育委員会	飛弾市
淡路教育事務所	登米市
洲本市教育委員会	淡路信用金庫
飛弾市教育委員会	洲本商工会議所
登米市教育委員会	（一社）淡路青年会議所
京都市教育委員会	産業経済新聞社
日本私立中学高等学校連合会	神戸新聞社
大阪私立中学校高等学校連合会	ホテルニューアワジ
兵庫県私立中学高等学校連合会	洲本商工会議所
京都府私立中学高等学校連合会	

(2) ご協力いただいた方々

洲本市長	竹内 通弘 様
洲本市教育長	河上 和慶 様
洲本市教育委員会事務局 社会教育課長	藤井 博章 様
洲本市教育委員会事務局 文化・スポーツ課長	岩熊 隆之 様
文化体育館長兼五色運動公園所長	
洲本市教育委員会事務局	千原 靖生 様
社会教育課課長補佐	
茶道 裏千家流 准教授	富士八千子 先生
富士八千子先生社中の皆様	中田 道代 様、城田 育代 様、 川口 一枝 様、岡本 愛子 様、 山口 和子 様、居内 陽子 様 前田 さゆり 様、上田 京子 様 橋詰 洋子 様、山本 敬子 様
大塚製薬板野工場の皆様	

(3) 協賛いただいた法人・団体・個人 (2014年9月30日現在) (順不同)

法人・団体

アートコーポレーション株式会社	有限会社長和	株式会社ディヴォーション
株式会社RCC文化センター	ソーサン株式会社	東京海上日動火災株式会社
株式会社IAGコーポレーション	株式会社京伸	株式会社トーア
株式会社アイビーエス	医療法人健昌会	トナキ産業株式会社
株式会社アクトレップ	株式会社晃菱	株式会社浪速実業
有限会社アクト	国際保険株式会社	株式会社日商エイジェンシー
朝日放送株式会社	コスモ警備保障株式会社	株式会社ニットーフファミリー
株式会社アテナ	サロン君屋	株式会社日豊社
アドベンチャーコーチング株式会社	株式会社サンエーディ	東大阪トーヨー住器(株)
淡路信用金庫	株式会社山越	株式会社フェスタル関西
株式会社ウィング	C4I株式会社	株式会社フォーライフ
植田寛重税理士事務所	ジェイ・ケイ・トラベル株式会社	株式会社フジキン
株式会社魚萬珍味堂	株式会社シティープロパティ	藤田観光 有馬
うき税理士事務所	株式会社ジャパンファミリー	ブティック エルパティオ・コイデ
弁護士法人梅ヶ枝中央法律事務所	株式会社ショウワコーポレーション	株式会社フレディ・カンパニー
株式会社エイフ	有限会社信成サービス	北海道ファミリー株式会社
(株)エクセルインターナショナル	社会福祉法人千種会	株式会社ホテルニューアワジ
株式会社エヌウィック	株式会社損害保険ジャパン	株式会社毎日放送 ラジオ局 営業部
エフピーサポート株式会社	タイコー株式会社	三木ゴルフ倶楽部
M. A. ビジネス株式会社	太陽ASG有限責任監査法人	弁護士法人宮崎総合法律事務所
エンジョイゴルフ スズキ	有限会社ダックス	メゾン・ウエダ
(株)遠藤建設	辰巳工業株式会社	(株)夢乃
株式会社オーアンドケー	株式会社タナカカメ	読売ゴルフ株式会社
関西アイエヌエスサービス株式会社	中央労務事務所	緑風観光株式会社
九州共栄ファミリー株式会社	中国企業株式会社	World Tree
グリーンシステム株式会社	株式会社中国放送	

記載不可の団体・法人含め全77団体・法人

個人

青木 清子	河合 努	小松 としゑ	高橋 直英	原納 公也	山本 雅弘
葎 範夫	河合 ひろみ	小山 健治	竹岡 和彦	東野 晃三	山幡 一雄
石松 千咲	川壁 正彦	齋藤 洋一	田島 俊	樋口 美貴雄	米津 加代子
磯中 淳	川島 哲三	相良 宝清	田中 靖浩	平岡 睦男	若杉 公一
伊藤 啓司	川瀬 江美	定久 彰利	坪井 一字	前田 嘉昭	若原 康正
植田 寛重	神田 雪子	塩崎 隆幸	土信田 孝	牧 一郎	脇田 和美
浮氣 利廣	菊池 清市	志村 芳光	伴野 國久	松尾 雅彦	和田谷 笑子
大石 正守	岸 孝二	下垣 真希	中澤 尚文	松岡 大藏	渡部 泰平
大川 哲次	木村 道弘	下坂 友三	西澤 良臣	松澤 一夫	渡辺 洋
大竹 美喜	國谷 昌賢	新貝 寿行	西澤 昌彦	水野 彌一	
大竹 良樹	久禮 哲郎	杉本 香世子	野々上 孝義	村岡 正啓	
加地 章	黒岩 祐治	杉本 庄司	延原 敏朗	初山 敏雄	
柏崎 昇一	合田 敏弘	鈴木 規夫	畑 守人	森本 一晶	
金子 博昭	小原 和重	住川 功	濱本 英輔	藪内 晴樹	

記載不可の方含め全86名

23.

(1) 理事会

理 事 長	水野 彌一	(京都大学アメリカンフットボール部 前監督)
名 誉 理 事 長	齋藤 洋一	(神戸大学名誉教授、 社会福祉法人恩賜財団 済生会中津病院 名誉院長)
理 事 (名 誉 塾 長)	大竹 美喜	(アフラック(アメリカンファミリー生命保険会社) 創業者・最高顧問)
理 事 (発 起 人 代 表)	大石 正守	(国際保険株式会社 社主・名誉会長)
理 事 (塾 長)	下垣 真希	(ソプラノ歌手、名城大学大学院 多文化共生論講師 名城大学 ドイツ語講師)
理 事 (塾 長 補 佐)	前田 嘉昭	(大阪教育大学講師/元大阪府立阿倍野高等学校 校長)
理 事	山田 茂善	(太陽 ASG 有限責任監査法人 総括代表社員 CEO、公認会計士)
理 事	若原 康正	(緑風観光株式会社 代表取締役社長)
理 事	山幡 一雄	(緑風観光株式会社 専務取締役、国際保険株式会社 顧問)
理 事	鈴木 規夫	(社団法人日本ゴルフツアー機構 理事)
理 事	山田 庸男	(弁護士法人梅ヶ枝中央法律事務所 所長、 元大阪弁護士会 会長、弁護士)
理 事	松浦 三郎	(一般社団法人学習評価研修所 所長)
理 事	西澤 良臣	(国際保険株式会社 顧問)
監 事	浮氣 利廣	(浮氣税理士事務所 税理士)
特 別 顧 問	野田 智義	(特定非営利活動法人 ISL 理事長 経営学博士)
特 別 顧 問	濱本 英輔	(株式会社ロッテ 顧問)
特 別 顧 問	坪井 一字	(大阪経済法科大学 教養学部教授、元参議院議員)
特 別 顧 問	松岡 大藏	(税理士、大阪国税局元徴収部長、桜美会(国税局OB会)会長)
特 別 顧 問	瀧川 好美	(淡路信用金庫 会長)
特 別 顧 問	木下 紘一	(洲本商工会議所 会頭、ホテルニューアワジ 代表取締役社長)

(2) 事務局・サポーター・OBセッション

大阪事務局	事務局長	西澤 良臣
	次長	舟尾 逸弘
	スタッフ	大崎 剛
		近藤 由美子
		櫻井 宇多
		板橋 祐輔
	小谷 登	
広島事務局	事務局長	神田 雪子
	スタッフ	新谷 雅司
		山崎 章子
東京事務局長	松浦 三郎	
事務局アドバイザー		小松 としゑ
		高橋 道子
		宮原 あけみ
写真担当	伴野 國久	
映像担当	吉川 努 (映像屋ZOOM)	

サポーター

明智 風花	(株式会社RCC文化センター)
飯島 悠希	(国際教養大学 2年)
石松 千咲	(大阪府立西淀高等学校 教諭)
井東 直人	(大阪経済大学 3年・2011年度塾生)
浮氣 菜摘	(立命館大学 3年・2011年度塾生)
岸本 樹	(同志社大学 1年・2011年度塾生)
坂本 慶太	(アメリカンファミリー生命保険会社 近畿総合支社)
阪本 孝平	(大阪スクール・オブ・ミュージック専門学校 2年)
高崎 翔平	(東京藝術大学 修士課程)
高野 智史	(アメリカンファミリー生命保険会社 近畿総合支社)
檜木 望史	(国際教養大学 4年)
西田 成	(琉球大学医学部 5年)
濱田 慎太郎	(エース損害保険株式会社)
バロスペレイラ 海王	(大谷大学 3年)
広野 友紀子	(京都外国語大学 3年)
宮地 賢和	(大阪府立だいせん聴覚支援高等学校 教諭)
山内 美貴	(岡山理科大学 2年・2011年度塾生)
吉岡 奏恵	(関西学院大学 2年・2012年度塾生)
若杉 達也	(アメリカンファミリー生命保険会社 神戸総合支社)

OBセッション

浅岡 真菜巳	(立命館大学 2年・2013年度塾生)
兼田 寛大	(島根大学 1年・2013年度塾生)
田中 大貴	(関西健康科学専門学校 1年・2011年度塾生)
谷井 志保	(龍谷大学 短期大学部 1年・2012年度塾生)
清水 彩花	(大阪府立大学 1年・2012年度塾生)
盛一 季美香	(日本大学 2年・2011年度塾生)



きらめき未来塾事務局

〒 530-0044 大阪市北区東天満 1-12-13 IAG 天満ビル
TEL 06-6357-3335 FAX 06-6357-3354

Mail : info@kiramekimiraijuku.jp
URL : <http://kiramekimiraijuku.jp>

当塾へのご意見、ご感想をおまちしております。